令和６年度　事業報告書

社会福祉法人　川福会

目　次

Ⅰ．令和６年度事業報告

法　人・・・

令和６年度　社会福祉法人川福会　法人事業報告

１．ガバナンス強化の継続

（１）法人本部機能の検討、本部職員の職責・役割分担の検討

本部機能や本部に所属する職員の職責・役割分担を再検討します。

それに伴い、理事長権限の委任事項についても再検討し、専決規程や組織運営規程を改定し、より円滑な法人経営、事業運営につなげていきます。

対応事項

令和６年４月１６日づけで専決規程を改定し、あらたに理事長権限委任規程を策定しました。

理事長権限を強化するのではなく、今後の経営層、管理職の育成を目的として理事長権限の委任範囲を拡大し、本部職員、各施設の管理職に委任しました。

また、本部職員の業務分担を整理、職務ごとに明確化し、業務重複を無くすことで、本部の総務機能を向上させ、組織運営の円滑化を図りました。

（２）法人のルール・基準の整備・職員への浸透

事業運営に関する種々の管理方法や事務手続き等について、令和６年度も実態把握を行い、必要に応じて統一していきます。

また、規程やルール改定の告知について、その方法や職員確認のありかたを検討し、法人で統一していきます。

対応事項

≪現金収受方法の統一・預り金規程の改定≫

＜確認事業＞

特養・老健・通所介護・短期・訪問介護・小多機・ケアハウス

＜確認場面＞

引落不可や現金払い、振込希望・受診料・小遣い・小遣い以外の所持金・喫茶・買い物預り金等

＜対応＞

- 口座振替の手続き完了までの対応の全施設統一
- 新たな口座引落し日を設定し、現金払い等を削減
- 利用料の返還は現金で行なわず、今後は次回利用料と相殺か振込返還
- 利用者の金銭等（小遣含む）を継続的に預かっている施設は立替払いに変更
- 理美容等、即時領収書未発行の場合、立替えて利用料と併せての請求に統一
- やむを得ない事情で利用者の金銭等を預かる場合のルールとして、預金等管理規程を改定し、法人で統一した手続きを行う
- 上記統一内容に沿って、重要事項説明書・契約書の内容を統一

≪就業規則等の周知についての対応策一覧≫

＜旧対策＞

・ホームページの関係者専用メニューへのアップ

・冊子の設置（閲覧できる規程等が施設ごと異なる）

・規則等改定時に施設長部長会議、職員代表説明会等で新旧対照表を用いて伝達

＜追加・変更対策＞

・備付冊子の構成の統一、目次作成（閲覧しやすくした）し再周知

・備付冊子の規則等を全てホームページでも閲覧できるようにアップ

・規則等の改定時の備付冊子の更新方法を全施設で統一

・規則等の説明は、新旧対照表の他に簡単な説明書（必要な場合）を作成

・新旧対照表・説明書を提示して伝達した施設での記録（議事録）作成指示

・改定日から１か月間、新旧対象表と説明書を事務所内掲示にて周知

・関係者専用メニューのログイン・パスワードの常時掲示

・通達による関係者専用メニューへのパスワードの変更

・労働条件通知書兼雇用契約書への就業規則等の閲覧方法について明示

（３）会計監査人監査・内部監査の実施、是正

会計監査人による会計監査を受け、その指摘事項に真摯に対応します。

また、内部監査を継続して実施し、加算等介護報酬請求に誤りがないか、勤怠管理等法人のルールが適切に運用されているか確認し、改善を要する場合は、指導を行い各事業の適正な運営に注力します。

その他、介護保険改正等に伴う各事業所の対応状況について順次確認を実施して行きます。

・改正に伴う要件等への対応状況の確認（加算や職員配置等）

・義務化された認知症介護基礎研修の実施状況の確認

・義務化された計画の整備や訓練、研修等の実施状況の確認

対応事項

≪会計監査人による会計監査≫

令和５年度決算監査において以下の通りの指摘および対応事項を受け、下記の通り対応を実施致しました。

・退職給付引当資産の仕訳の修正

・決算付属明細書を修正

・積立金明細に補足説明の脚注を作成

・財産目録（未収補助金）摘要の記載内容を修正

・事業未収金の内、４件を未収補助金に科目振替修正

引き続き会計監査人による会計監査を受け、その指摘事項に真摯に対応いたします。

≪内部監査の実施≫

内部監査については人員配置状況や加算等介護報酬請求に関する確認、勤怠管理等法人のルールの運用状況の確認等を実施。改善を要する場合は、指導を実施し、各事業の適正な運営に注力致しました。

また、令和６年度より義務化された以下の６項目について整備状況並びに記録状況等の確認を実施しております。

・高齢者虐待防止に関するもの（指針整備、研修実施、担当者の設置など）
・無資格者の認知症介護に係る基礎的な研修の受講（認知症介護基礎研修受講）
・感染症の予防及びまん延防止に関するもの（指針整備、委員会開催と結果の周知、研修や訓練の実施など）
・業務継続計画の策定等（業務継続計画の策定と見直し、計画の周知、研修や訓練の実施など）
・栄養マネジメントに関するもの（多職種共同での計画策定、栄養管理の実施と記録、定期的評価と計画の見直しなど）
・口腔衛生に関するもの（歯科医師等による助言・指導、指導に基づき計画の作成、定期的評価と計画の見直しなど）

２．　経営基盤の安定

（１）　介護報酬改定に伴う対応・加算取得の検討・対応

介護報酬改定による加算に対応した業務内容の見直しを行い、新たな加算取得計画を立案し、その実施に取り組みます。

対応事項

≪経営改善の検討≫

令和５年度では純資産、総資産がともに黒字に転じました。

安定した経営基盤の構築のため、短期・中期・長期での対応を推進いたします。

短期：稼働率・加算による一人あたり単価向上による収益改善
　　経費削減施策の継続・新たな立案

中期：不採算事業である訪問介護、小規模多機能のありかた検討

長期：物品・設備の丁寧に扱いによる減価償却費の自然な縮小

≪加算取得対応≫

※　赤字下線が令和６年度にはいり、新たに算定した加算
※　黒字は令和６年度以前にすでに算定していた加算
※　新興感染症等施設療養費　→　対象者がでれば算定

特養　加算項目	単位	福寿苑	みのわ	布市
退所時情報提供加算	250/回			
退所時栄養情報連携加算	70/回			
個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	12・20・20/月	Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
認知症チームケア推進加算Ⅰ・Ⅱ	150・120/月			
生産性向上推進体制加算Ⅰ・Ⅱ	100・10/月		Ⅱ	

※　新興感染症等施設療養費　→　対象者がでれば算定

老健　加算項目	単位	枚岡	長田	すいれん
短期集中リハビリ実施加算Ⅰ・Ⅱ	258・200/日	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
認知症短期集中リハビリ実施加算Ⅰ・Ⅱ	240・120/日	Ⅰ	Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ・Ⅱ
退所時情報提供加算Ⅰ・Ⅱ	500・250/回	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
退所時栄養情報連携加算	70/回	○		○
初期加算Ⅰ・Ⅱ	60・30/日	Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ・Ⅱ
口腔衛生管理加算Ⅰ・Ⅱ	90/月		Ⅱ	
協力医療機関連携加算	100/月			
入退所前連携加算Ⅰ・Ⅱ	600・400/回	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ
入所前後訪問指導加算Ⅰ・Ⅱ	450・480/回	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
リハマネ計画書情報加算	33/月	○	○	○
生産性向上推進体制加算Ⅰ・Ⅱ	100・10/月	Ⅱ		
科学的介護推進連携加算Ⅰ・Ⅱ	40・60/月	Ⅱ	Ⅱ	
褥瘡マネジメント加算Ⅰ・Ⅱ	3・13/月	Ⅰ・Ⅱ	1・Ⅱ	

※　新興感染症等施設療養費　→　対象者がでれば算定

通所　加算項目	単位	福寿苑	みのわ	布市	喜里川	ごりょう
科学的介護推進連携加算	40/月	○	○	○		○
口腔栄養スクリーニング加算Ⅰ・Ⅱ	20・5/回		Ⅰ	Ⅰ		
個別機能訓練加算Ⅰイ・ロ Ⅱ	56・85/日 20/月	Ⅰイ	Ⅰロ	Ⅰイ	Ⅰイ	

デイケア　加算項目	単位	長田の里	すいれん
リハマネ加算イ・ロ・ハ	560～240/月		イ
科学的介護推進連携加算	40/月	○	
口腔栄養スクリーニング加算Ⅰ・Ⅱ	20・5/回	Ⅰ	

小多機　加算項目	単位	ごりょう
科学的介護推進連携加算	40/月	○
総合マネジメント体制強化加算Ⅰ・Ⅱ	1200・800/月	Ⅰ

（2）経費削減（契約・商品・業者検討）による支出改善

令和６年度も商品の統一、契約の見直し、業者変更等の経費削減施策を引き続き検討・実施することで、支出改善に取り組みます。

対応事項

令和６年度も商品の統一や契約の見直し、業者変更等の経費削減施策を引き続き検討・実施しております。

≪eLTAX（エルタックス）導入≫

毎月２５件の地方自治体に職員の特別徴収住民税を納付しておりますが、取引銀行の事務お預かりサービスの納付から、銀行を通さずに地方税に係る申告・納税・届出ができるオンラインサービスの eLTAX（電子申告）によるダイレクト納付に切り替えを行ったことで、無料で電子納税が可能となり手数料を削減。

≪カラオケ機器の見直し≫

一部のカラオケ機器については令和６年の５月で新譜配信が終了し、１０月以降は順次楽曲配信が終了となるため、有用性や使用頻度等について検証を実施しました。

福寿苑、枚岡の里、長田の里の介護保険施設については、インターネットの配信コンテンツの利用やレクリエーション活動の充実等にて代替が完了しております。

ひらおか、喜里川については各入所者より希望を伺い、参加申込型のレクリエーションとして、囲碁・将棋、麻雀等の定期開催し、１０月までの参加人数や反響を検証の上、再度導入の是非について検証を行います。

代替案の提案・実施により購入費用及びコンテンツ使用料が削減されています。

≪施設の定期清掃契約の見直し≫

各施設において契約している定期清掃について見直しを行い、清掃範囲や内容の見直し、実施頻度についての検証、並びに日常清掃の内容に関し検証を行い、支出削減を実施致しました。

（3）生産性向上に対する取り組みの継続

生産性向上を図るための課題認識を職員と共有し、業務効率化のための環境整備・業務改善に継続して取り組みます。

対応事項

業務効率向上のため、業務内容の均一化や書式の統一などの業務改善について当年度も引き続き実施しております。

また、加算取得にも関係する職場環境等要件の生産性向上について各施設における実施状況の確認を実施致しました。

現行の法人内における取り組み状況を整理することで課題を明確にし、生産性向上を図るための環境の整備と業務改善に取り組んで参ります。

下半期には大阪府社会福祉協議会主催の「介護の生産性向上の他施設見学会」にて、他事業所の見学や先進的な取り組みの意見交換会に職員参加を計画しており、当該内容について当法人施設へフィードバックできればと考えております。

≪勤怠ソフトアンケートによる対応≫

職員アンケートの結果をもとに、下記対応を行いました。

＜対応済＞

・職員表示並べ替えの自由化
・汎用帳票（実労働確認書）の署名欄幅の変更
・就業時間設定にて区分ごとに色の設定が出来るように変更
・一括承認と承認・決裁・閲覧の際の表示についてのマニュアル配布
・タイムカードエラーメッセージ一覧表を配布
・タイムカード集計表の項目説明一覧表を配布

＜対応協議継続中＞

・カレンダー起算日を１日始まりから 16 日始まりへ設定変更
・勤務表作成システムにて勤務入力時の文字サイズや表示方法の変更
・コメントの使用頻度・目的を確認し、必要であれば一括承認一覧画面に表記できるように表記するバージョンアップ

≪g-bizID 導入≫

各施設より行政へ郵送にて提出を行っていた書類（３６協定届出や社会保険算定基準届出、賞与届出など）を g-bizID にて本部から一括して電子申請することで、郵送代を削減しました。

電子申請システム内に以前の申請データが保存され、次回申請時に流用できることから書類作成に係る時間が削減されています。

３．法人組織風土の改善

（１）虐待・不適切介護根絶の対応継続・改善

令和５年度に実施した不適切介護の根絶施策について効果測定を行い、各施設の組織風土の改善状況について実態把握を行います。

また、その実態に応じて必要な施策を検討し、実施していきます。

対応事項

令和５年度に実施した不適切介護の根絶施策を継続して実施し、発生状況の把握及び研修等の実施状況について法人で集約を行い、実態把握を継続致しました。次年度以降は実施した研修だけでなく参加人数や事業所についても把握を行い、より改善の取組がどこに実施されたか等、より状況を的確に把握して参ります。

新規採用や多様な雇用形態により、法人が策定した規程や公益通報窓口等の各相談窓口について、認識していない職員も増加している事から、再度職員への周知のため各施設へ通達を実施いたしました。

また、職員からの各相談や通報の申出において、通知先が個人のメールアドレス宛てでは申出を躊躇される職員も多いと推測されるため、新たに専用のメールアドレスを設け職員からの申出が行いやすいよう改善を実施いたしました。

今後も風通しのよい組織風土を構築していきます。

（2）ハラスメント防止対策の進捗管理・実態把握・改善

策定した方針や規程を周知、行為者への対処方針や相談窓口等に関する職員への周知及び啓発等を推進します。

また、各事業所が取り組むハラスメント防止策の進捗管理を行うとともに、職員へのハラスメントアンケートの実施により、実態把握を行い、その改善に取り組みます。

対応事項

策定した方針や規程を周知すると共に、行為者への対処方針や相談窓口等に関する職員への案内及び啓発等を推進致しました。

また、実態把握を目的として職員へのハラスメントアンケートを実施しました。

ハラスメント調査に事案発生時期の期間は設けず、法人設立後からの４３年間を対象期間とし、結果は下記となりました。

・配布総数５６７件の内、ハラスメントを受けたと回答されたアンケートは４８件（全体の８．５％）
・内容としてはパワーハラスメント関連のものが最多
・本アンケートの趣旨からは外れるが、カスタマーハラスメントに言及されているものも数件あり

アンケートの主訴内容については真摯に受け止めるとともに、一方で当該意見がハラスメントに該当しないと考えられる意見、現在は当該ハラスメントが継続していないとの意見も多数あったため、職員がハラスメントに関しての正しい知識や認識、定義等の知見を得る必要があり、研修実施等の取り組みを行っていきます。

また、今後は令和６年度以降の期間において、定期的に調査を行っていきます。

（3）第３者評価の再受審（特養３施設）

令和５年度までに受審した第３者評価については法人統一で２０項目を改善しましたが、令和６年度に再度第３者評価を受審し、過去の受審結果と比較し、改善状況を明確にすることで、より適切な施設運営管理、利用者処遇の向上につなげていきます。

対応事項

各施設の受審については第３者評価の実施事業所とスケジュールを調整の上、下記の通り実施しました。

・みのわの里　令和６年６月２８日受審
・福寿苑　令和６年１１月１３日に受審
・布市福寿苑　令和７年６月に一般社団法人ぱ・まるにて、受審予定

みのわの里の第３者評価項目の結果報告より、令和５年度に続く水平展開として、受審内容に照らし合わせた自己評価を当法人の介護老人保健施設３施設において実施。

新たな改善施策として、地域ニーズの発掘や把握の方法、地域住民やご家族等に向けた交流（健康講座）の実施等、新たに３項目について、他事業所で実施している取組等を参考に改善を実施しました。

4．職員採用・育成・定着の取り組み

（1）次世代の経営層・管理職の育成

次世代の管理職候補に、研修等を通じて、経営理念を周知・理解（周知・理解は全職員が対象）させ、施設運営管理及び財務管理能力向上のための取り組みを行います。

対応事項

管理職に育成において、会計等の専門的知識を理解させるため。社会福祉法人会計に関する外部研修（一般社団法人福祉経営管理実践研究会主催の社会福祉法人会計入門講座）を受講させ、施設運営管理及び財務管理能力向上のための取り組みを実施しました。

また、管理職については経験を積むことを目的とした人事異動を行いました。

今後もソフトランディングを考慮し、定期的に管理職の人事異動を行っていきます。

（2）刷新後の人事考課項目による全職員の人事考課実施

不適切介護の根絶、労務管理の徹底等、職員が改善すべき点を人事考課項目としたうえで人事考課を実施、職員の意識を改革し、主体的、自立的な業務推進が行える人材を育成していきます。

対応事項

介護・福祉サービスの提供体制を議論する「２０４０年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会（厚生労働省所管）において、介護人材を確保・定着させるために、事業者が「キャリアラダー」を整備して職員のキャリアアップを図ることが重要だと強調されたこと、また、職員本人の意欲や能力、ライフステージに応じたキャリアパスを事業所が構築して定着を図れるようにするため、報酬体系や人員基準の中長期的な見直しも論点としているため、今後の動向に柔軟に対応していくため、一旦現行の人事考課を令和７年９月末日を以て休止する方向で検討中です。

人事考課の面談の内容を一部変更し、「仕事やメンタル面のサポート面談」「キャリアアップ・働き方等に関する定期的な相談・面談」を行います。

また、人事考課にて虐待、不適切介護根絶の遡及を行っていたため、別の遡及方法を検討します。

（3）採用ツール・情報発信の検討及び業務標準化の推進

採用ツール（求人パンフレットやチラシ、ホームページ）の見直しを行いつつ、新たなツールや情報発信の検討を行い人材確保に注力します。

特定技能等の受け入れを含めた、外国人採用の検討を実施します。

また、継続して職員の業務標準化を推進し、職場環境改善、健康維持等、職員の定着のための取り組みを行います。

対応事項

下記の取り組みを実施しました。

・派遣事業者情報の法人一括管理
・インスタ以外のＳＮＳの活用方法の変更及び拡大
・ショッピングモールでのブース賃貸による広報

・日雇いバイトの活用（カイテク）
・大阪府緊急雇用対策特設ホームページ職場体験付き求人登録（にであう）
・特定技能等の外国人採用
・法人内の介護士登録制度の運用開始

5.安心、安全への取り組み

（1） 事業継続マネジメントの確立

災害・感染ＢＣＰについて各事業所において義務化された委員会の開催、研修、訓練を計画的に実施し適宜見直しを行うとともに災害時の訓練の実施に当たっては地域住民の参加が得られるよう努め、自然災害と感染症に対するリスクを最小化することを想定した事業継続マネジメントの確立に取り組みます。

対応事項

各事業所において作成したＢＣＰ計画を基に、自然災害と感染症対策についてそれぞれ年２回の研修並びに訓練を実施し、その訓練等の結果による計画の変更や、職員の異動、役職の変更等に伴う担当者の変更や役割の調整等について適宜実施しております。

但し、災害時の訓練において、地域住民参加の訓練について実施できた事業所は無く、今後の課題となっております。

その他、ＢＣＰ対策の一環として、一部施設の自動販売機を災害救援自販機に変更し、緊急時に一時的に飲料を提供するインフラとしての役割を担えるよう対応いたしました。

＜各事業所におけるＢＣＰ計画の見直し箇所＞
・災害時利用者一覧表（安否確認優先順位）の担当者ごとの見直し
・優先業務と業務連絡先の再確認
・感染対策の見直し・業務内容の再確認
・担当者の変更と記載内容の確認
・施設外連絡リストの追加
・職員緊急連絡網変更
・避難経路や避難方法を見直し
・備蓄水や備蓄食の運搬方法の見直し

（2）包括的支援の充実

住み慣れた地域において、利用者の尊厳を保持しつつ、必要なサービスが提供できるよう、制度外ニーズへの対応やボランティアの有効活用等、地域に潜在する利用者ニーズに対応するセーフティネットの充実に向けて取り組みます。

対応事項

≪地域ニーズへの対応≫

各施設・事業所から集約した地域ニーズについては、地域性や地理条件等による地域差もありましたが、その中において全施設に共通した地域ニーズが存在する事が浮き彫りとなりました。これらの地域ニーズについて、当法人で実施している現行の地域公益活動等の実施内容の改善などで対応可能であるのか、新たな支援実施の検討の必要性等を検証し、セーフティネットの充実に向けた取り組みを実施していきます。

地域ニーズ	内容
世代間交流の機会がない	昔はあった年代を超えた交流を復活させたい
老人会の解散	担い手が無く、解散後も交流したいと希望があるが自主運営が難しい
些細な困りごとを頼める業者等の情報が欲しい	自宅での電球の取り換えや、重たい物の移動など、些細な事を頼める業者等を教えて欲しい
移動手段の整備（確保）	地域支援（サロンや教室等）には参加したいが、開催場まで行く移動手段がない
地域団体の担い手不足	自治会や子供会など地域団体の担い手の高齢化や若年層の不参加で担い手がいない
地域災害の避難誘導について	独居高齢者が有事の際に１人で避難できない

≪ボランティアについて≫

・ボランティア受付専用メールアドレスの開設
・川福会ＨＰへボランティア申込専用ページの開設
・受付担当者の設置
・ボランティア募集チラシの作成
・各施設職員等への広報
・各種学校へのチラシの配布（約１２０校×２回郵送済）
・学校訪問時に直接担当の先生方へチラシの配布及び説明
・各種就職ガイダンス、就職フェア時に求職者へ配布及び説明
・東大阪短大子育てイベントにてチラシの配布
・かわふくかい夏ふぇす２０２４にてチラシの配布
・介護の魅力発信フェアにてチラシの掲示

（３）地域公益活動の推進

これまで実施してきた地域公益活動が地域のニーズとマッチしているかを検証し、必要に応じて見直しや改善を実施しながら地域の公益的な取り組みを継続します。

対応事項

現状実施している地域公益活動の実施内容について評価を行いました。

取組については日々の事業活動や地域支援活動等により、地域からの協力依頼による活動や実施なども多く、実施回数の多さと効果（地域ニーズ）とは直接的には結び付かない事が顕著となっております。

今年度に把握した地域ニーズとの比較検証にて、効果的で且つ効率的な地域公益活動を行っていきます。

【地域における公益的な取組及び地域公益事業に類すると考えられる取組一覧】

実施施設	取組	取組内容	開催回数	効果
各施設	就労訓練事業（都道府県認定事業）	自立相談支援機関からの紹介による就労に困難を抱える方の受入れを実施	随時	◎
各施設	大阪府広域就労支援事業	就労訓練事業と内容は同様（大阪地域職業訓練センターや福祉事務所より紹介）	随時	◎
特養	大阪府社会貢献事業	生活困窮レスキュー事業として総合生活相談と緊急支援の実施	随時	◎
福寿苑	ぽかぽかサロン	地域の方への社会交流の場の提供（演芸のボランティアさん等による昭和歌謡や唱歌等）	12回	◎
福寿苑	お買い物ツアー	買物困難な高齢世帯に送迎・付き添いを実施	12回	○
福寿苑	認知症サポーター養成講座	枚岡中学での活動の進行支援	1回	○
福寿苑	高齢者疑似体験	縄手北小学校での活動の支援	1回	○
福寿苑	桜町お元気サロン	桜町在住の高齢者のためのサロンの支援	10回	◎
福寿苑	旭町竹とんぼサロン	縄手北校区高齢者のためのサロンの支援	10回	◎
福寿苑	まほうの肩たたき	高齢者のラジオ体操・棒体操・脳トレ	10回	◎
福寿苑	絵手紙教室	65歳以上の高齢者の絵手紙教室	12回	◎
福寿苑	男（dan)話（wa）会（kai）	男性高齢者のオンラインサロン	12回	◎
福寿苑	つどいサービス訪問	寺尾整骨院（つどいサービス）の訪問	2回	◎
福寿苑	縄手北校区民生委員会	縄手北校区民生委員会の参加	10回	◎
福寿苑	おれんじサロン「いこか」	認知症高齢者と圏域の高齢者のサロン	12回	◎
福寿苑	高齢福祉サービス事業者向け研修	川福会3包括合同研修会「虐待研修」「人権研修」	2回	◎
みのわの里	認知症カフェ	作業療法　認知症の講話	12回	◎
みのわの里	家族介護教室	腰痛予防ピラティス・消費者被害・栄養士の講話・コンサート	6回	◎
みのわの里	認知症サポーター養成講座	認知症サポーター養成講座の開始	4回	◎
みのわの里	多世代交流会	加納校区子供会、福祉委員会主催の多世代間交流イベント	1回	◎
みのわの里	スギ薬局出張相談会	スギ薬局加納店店頭にて出張相談会を開催	6回	◎
みのわの里	地域清掃活動	地域の環境美化清掃を実施	6回	△
みのわの里	車椅子の無料貸し出し	外出などに必要な車椅子を無料貸し出し	随時	◎
みのわの里	ふれあいサロン	地域交流の場の提供(明治安田健康チェック・物作り（創作活動)・福祉用具説明・カラオケ)	2回	◎

布市福寿苑	教育機関連携（石切東小学校）	小学校に花の植え替え体験	4回	◎
布市福寿苑	上石切町防災会議	独居高齢者の避難誘導訓練の実施検討	2回	△
布市福寿苑	地域清掃	施設周り、域包括支援センター事業所周りの地域清掃	3回	◎
布市福寿苑	きっずサポーター養成講座	石切東小学校から小学生に認知症についての学びの場の提供依頼対応	1回	◎
布市福寿苑	認知症カフェ支援	そんぽの家石切にて開催している認知症カフェへの支援	12回	◎
枚岡の里	健康教室（ぽかぽかサロン内）	サロンにおいて理学療法士による認知症に関する講演、認知症予防の体操を実施	1回	◎
枚岡の里	健康教室	地域住民のための健康教室（ロコモ度チェックとロコモ予防体操）を実施	1回	○
枚岡の里	高齢者疑似体験	縄手北小学校での活動の支援	1回	○
長田の里	介護よろず相談窓口	地域の方に向けて「介護よろず相談窓口」を設置	随時	○
長田の里	教育機関連携（東大阪大学交流会）	こども研究センター主催の”こども応援ひろば　2024”に入所者と一緒に参加	1回	○
長田の里	リハビリ体操の紹介	ブログ・長田の里たよりに肩こり予防体操を掲載	1回	○
長田の里	祭事への協力	お祭りのだんじりの休憩場所として開放	1回	◎
長田の里	リハビリ体操の紹介	ブログに転倒予防体操を掲載	1回	○
長田の里	教育機関連携（東大阪敬愛短期大学）	東大阪敬愛短期大学の文化祭に参加	1回	◎
長田の里	リハビリ体操の紹介	ブログにスマホ首の予防体操を掲載	1回	○
すいれん	鶴見区民まつり出店参加	区民に向け「介護相談・健康相談」等のブース出店	1回	○
すいれん	地域貢献活動「すいれんフェスタ」	地域の方に向けて介護予防体操及び介護食への理解を深める	1回	○
すいれん	介護相談窓口	地域の方に向けて「介護よろず相談窓口」を設置	随時	×
喜里川	青山会　パン販売	障害者施設連携による施設内でのパンの販売	30回	◎
喜里川	縄手北校区　自主防災訓練ふれあい地域清掃	地域清掃・防災訓練	1回	○
ひらおか	小地域ネットワーク	栄養講座の開催	1回	○

【評価記載欄】

多大な効果があった　○　効果があった　△　効果があったか不明　×　効果なし

特別養護老人ホーム福寿苑　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度の総括

・業務監督職は事業計画を把握し業務構造と過程に注力して業務の見直しを進めることが出来ました。

・介護の生産性向上『大阪府伴走支援プログラム』の参加で事業所課題の見える化が進み、職員の働きやすい環境へ変化さる事が出来ました。

・法令に基づく法定研修については『ジョブメドレーアカデミー』の導入により個別プログラムにて全職員が職種ごとに統一した内容の受講が実施出来ております。また、無資格未経験での入職者に必須の認知症介護基礎研修の実施についても統一内容で実施出来ています。理解の習得度などについて、次年度以降進めて参ります。

・介護の生産性向上を目指し他施設の見学会などを実施。本機会は見学にとどまらず、当苑の取り組みについても相談を伺う機会として実施できたことにより、職員はよりご利用者ニーズに目を向け支援する理解を深める事ができる機会となりました。

・求人募集媒体及び派遣会社等の利用を継続しつつ、カイテク（スポットワーク）の利用や法人登録型介護士の登録者数を増加させるための呼びかけを実施致しました。

・地域の高齢者支援の拠点として、介護の魅力発信を伝える機会を創造。教育活動や福祉活動について継続的な実施が行えた。

【２】事業実績

		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点全体	目標	—	100%	70.5%	23.9%	6.8%	△1.2%
	実績	—	98.3%	73.0%	25.2%	7.0%	△5.2%
特　養	目標	96.0%	100%	73.8%	29.0%	8.2%	△11.0%
	実績	94.7%	101%	71.0%	30.0%	8.2%	△9.2%
短期入所	目標	98.0%	100%	56.1%	20.7%	0.3%	22.9%
	実績	96.5%	96.4%	56.7%	20.8%	0.3%	22.2%
通所介護（一般）	目標	72.0%	100%	69.6%	23.0%	12.4%	△5.0%
	実績	62.2%	93.0%	88.3%	24.3%	14.4%	△27.0%
通所介護（認知）	目標	65.0%	100%	69.0%	15.2%	7.0%	8.8%
	実績	52.2%	77.3%	95.1%	20.1%	7.2%	△22.4%
		担当件数	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
居宅介護	目標	2472件 1人39.0	100%	65.4%	3.5%	0.9%	30.2%
	実績	2212件 1人37.7	100.3%	72.1%	4.2%	1.1%	22.6%

		担当件数	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
介護予防	目標	2640件 1人44.0	100%	42.5%	41.0%	0%	16.5%
	実績	3074件 1人51.2	110.6%	40.7%	40.4%	0%	18.9%
地域包括	目標	131件	100%	77.5%	16.5%	1.8%	4.2%
	実績	190件	96.6%	81.9%	13.6%	3.1%	1.4%

【3】事業計画の実施報告

（1）特別養護老人ホーム（短期入所事業を含む）

・前年度末から当年度初めにかけて肺炎により入院が長期化するなどのケースが生じ、目標稼働率９６％に対し、稼働率は９４．７％と未達。短期入所も目標９８％に対し、９６．５％の結果となっております。

・『ジョブメドレーアカデミー』の導入により、オンラインによる研修で年間計画に沿った研修を全職員が受講出来、且つ受講時間を各職員のペースで行える事から、受講しやすい環境づくりに努めた。

・居室担当介護職員が軸となり、ご利用者の要望や行事の案内等をご家族へ発信し、参加型行事の企画立案と実施までを行うことで、ご利用者のサービスの質向上、居室担当介護職員としての役割を理解した質の高いサービスの提供が出来ました。

（2）通所介護・認知症対応型通所介護

・人員配置は専門職の配置を見直し業務改善に努めました。国家資格保持者を募集すると共に資格取得に向けた支援を行い、介護福祉士の国家資格保持者が増加致しました。

・職種ごとの定期的意見交換の機会を増加させ、自立支援、個別支援、接遇力のある職員体制を整備し指導力の向上に繋がった。

・認知症対応型通所介護において新規加算取得を行ったものの、個別機能訓練における対象者については結果に繋がらす。

・新規ご利用者獲得に向け、個別ニーズにマッチングするよう取り組んだが、入院、入所となる方が続き年間を通じて稼働率が安定しませんでした。

・機能訓練の強化を進める一方で医療ニーズの高い方の利用においても目を向け利用受入れを行い、稼働率向上に努めました。

（3）居宅介護支援事業所

・質の高いケアマネジメントの推進を目指して一週間に一回会議を実施し、各担当者のご利用者の状況を共有し、担当者が不在時は他の職員が対応を実施するなど、事務所全体で対応致しました。

・個別研修計画を策定しヤングケアラーに関する研修など、新たに必須となった研修に参加し各職員のスキルアップを図りました。

・地域包括支援センターや他の居宅介護支援事業所の合同事例検討会に参加、多種

多様なニーズに対応できるようケアマネジメント力をつけていきます。

・他事業所との勉強会に主催、初期と企画から係り実施を行いました。

・フレックス制度の活用にて職員のワークライフバランスを図りました。

・他職種連携の場に積極的に参加し、連携強化に努め関係性を構築。地域包括支援センターなどから紹介される対応困難なケースの受け入れができる体制を常時確保出来るよう努めました。

（4）地域包括支援センター事業実績報告

・包括主催の介護予防教室と家族介護教室は年間計画に沿って開催出来ております。また、「かわちの国の思い出ラジオ」や「本町体操教室」などの介護予防教室も地域包括ケア推進課や本町親和会（自治会）と協働して開催を実施しております。

・介護予防教室から自主グループ化した絵手紙教室も、事務局として後方支援を実施しました。

・地域の孤立した高齢者支援について単位地域ケア会議を開催し、自治会と協力して通いの場を創出した他、東大阪市の「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」も圏域の４グループでフレイル予防講座を開催し、圏域の高齢者にフレイル啓発を実施致しました。

【4】施設の課題

・各事業ともに時間管理や業務整理といった改善にて時間を捻出する努力と視野は広がってきており、社会福祉法人の役割について職員への説明を続け、具体的に地域に出ていくよう行動を進めているが、実際には各事業の運営遂行に時間を要し、地域に向けた社会貢献活動につながる時間を捻出する事は出来ていない事からこれらの時間を取れるよう、事業所の人員体制を安定させることを最優先事項として取り組んで行きます。

・建物、設置機器の経年劣化により故障および修繕の必要箇所が増大して来ており、計画性を持って実施して参ります。

・物価の高騰等により支出は大きくなることが予測されるため、コスト削減への努力や加算取得などの行動を実施し、運営が停滞しないように努めます。

【5】付表

（1） 年間行事実績

月	特別養護老人ホーム 行事内容	デイサービスセンター 行事内容
4	苑庭桜見学　写真撮影	花見
5	デリバリー行事	端午の節句（おやつ作り）
6	外出レク	お茶会（未来カフェ）
7	かき氷	七夕まつり
8		夏祭り（盆踊り）
9	敬老祝賀会	敬老祝賀会

１０	秋祭り（太鼓台見学） デイ運動会に参加	運動会
１１	焼き芋　居酒屋	焼き芋大会（未来カフェ）
１２	クリスマス会	クリスマス会
1	お正月　絵馬飾り　おみくじ	新年会
2	鍋行事	節分祭
3	たこやきパーティー	ひな祭り
毎月開催	誕生日会 ホーム喫茶	季節のお風呂　誕生日会 アコーディオン演奏会　カラオケ ごちそうの日

（２）防災訓練実績

月	種別	内容
5	ＢＣＰ訓練（災害）	土砂崩れが発生　備蓄食料確保についての訓練
9	ＢＣＰ訓練（災害）	地震が発生　　備蓄食料確保についての訓練
9	ＢＣＰ訓練（感染）	机上訓練
2	夜間総合訓練	夜間を想定した通報、消火、避難訓練
3	ＢＣＰ訓練（感染）	感染症が発生したと想定してのゾーニング訓練
3	総合訓練	火災を想定しての避難、消火訓練

（３）研修実績

特別養護老人ホーム

月	研修内容（テーマ）
4	プライバシー保護に関する研修
5	事故・リスクマネジメントに関する研修
6	介護予防及び要介護度進行予防に関する研修
7	感染症に関する研修　倫理及び法令順守に関する研修
8	身体拘束・虐待防止に関する研修 感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修
9	接遇に関する研修
１０	緊急時の対応に関する研修
１１	事故発生又は再発防止に関する研修 身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修
１２	感染症及び災害に関わる業務継続計画の為の研修
1	認知症及び認知症ケアに関する研修
2	ターミナルケアに関する研修
3	感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修 医療に関する教育、研修

随時	職員に適した研修を随時開催

デイサービスセンター

月	研修内容（テーマ）
4	介護現場で気を付けたいプライバシー保護
5	事故発生又は再発防止に関する研修
6	介護予防及び要介護度進行予防に関する研修
7	倫理及び法令遵守に関する研修
8	感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修
9	接遇に関する研修
１０	緊急時の対応に関する研修
１１	身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修
１２	感染症及び災害に係る業務継続計画のための研修
1	認知症及び認知症ケアに関する研修
2	ターミナルケアに関する研修
3	医療に関する教育、研修
随時	職員に適した研修を随時開催

居宅介護支援事業所

月	研修内容（テーマ）
4	介護現場で気を付けたいプライバシー保護
5	事故発生または再発防止に関する研修
6	介護予防及び要介護進行予防に関する研修
7	倫理及び法令遵守に関する研修
8	感染症・食中毒の予防及び蔓延防止に関する研修
9	接遇に関する研修
１０	緊急時の対応に関する研修
１１	身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修
１２	感染症及び災害に係る業務継続計画のための研修
1	認知症及び認知症ケアに関する研修
2	ターミナルケアに関する研修
3	現場で使えるケアプラン
随時	ヤングケアラーに関する研修　事例検討会など

特別養護老人ホームみのわの里　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度　総括

・法人と職員の存在意義や行動指針（役割）の理解が深めるよう法人理念の浸透に向けて５年ぶりに毎週月曜日の朝礼で唱和を再開しました。
職員一人一人が、同じ意識を持って考え行動できるよう、継続して理念の浸透に努めています。

・感染症対策については、新型コロナウイルス感染症の発生などが特養・通所共にありましたが、今までの経験を活かし、職員は落ち着いて適切な感染拡大予防策を講じて収束させることができております。
面会に関しても予約なく、居室で実施できるように取り組み、ご利用者やご家族からの要望に応えることができました。

・協力医療機関との連携強化につきましては、月に１度の協力医療機関との会議開催の実施に向けて調整を行っており、将来的には加算取得に繋げて行きたいと考えております。

・生産性向上委員会を開催し、介護記録システムの使用状況について見直しを行い活用していなかった帳票の使用や、記録内容の記載について再確認することで業務のスリム化に努めました。

・災害時対策として備蓄水や備蓄食等の災害時の物品の数量及び場所の共有を行い、訓練では断水時のマンホールトイレの設置や簡易トイレの作り方を研修し災害時の排泄対応の理解を深めました。

【２】事業実績

		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点全体	目標	—	100%	67.5%	22.5%	3.8%	6.2%
	実績	—	101.2%	66.3%	21.9%	3.5%	8.3%
特　養	目標	95%	100%	60.4%	29.4%	4.3%	5.9%
	実績	93.4%	98.3%	57.4%	28.6%	4.0%	10.0%
短期入所	目標	90%	100%	52.6%	22.1%	5.0%	20.3%
	実績	87.9%	97.7%	53.3%	21.7%	4.9%	20.1%
通所介護（一般）	目標	77%	100%	78.2%	14.6%	5.4%	1.8%
	実績	80.8%	104%	61.1%	12.0%	4.7%	22.2%
通所介護（認知）	目標	65%	100%	66.8%	14.1%	2.7%	16.4%
	実績	55.2%	84%	84.6%	16.7%	2.7%	△4.0%

		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
訪問入浴	目標	899 件 3.5 件	100%	116.0%	5.8%	0.7%	△22.5%
	実績	699 件 2.7 件	77.7%	156.2%	7.2%	0.7%	△64.1%
訪問介護 (介護保険)	目標	11242 件 3.5 件	100%	114.0%	4.7%	1.0%	△19.7%
	実績	11314 件 3.4 件	100.6%	119.6%	4.6%	0.8%	△25.0%
訪問介護 (障害福祉)	目標	4415 件 2.2 件	100%	56.6%	4.1%	0.6%	38.7%
	実績	3639 件 2.1 件	82.4%	77.6%	3.9%	0.4%	18.1%

※訪問入浴の訪問件数は年間延べ利用者数と１日あたりの訪問件数

※訪問介護の訪問件数は年間延べ利用者数と職員常勤１人の１日あたりの訪問件

		担当件数	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
居宅介護	目標	2808 件 39.0 件	100%	82.5%	1.7%	0.8%	15.0%
	実績	2909 件 40.4 件	103.5%	80.3%	3.3%	0.8%	15.6%
介護予防	目標	2340 件 39 件	100%	57.9%	38.6%	0.0%	3.5%
	実績	2615 件 43.5 件	111%	51.5%	33.2%	0.0%	15.3%
地域包括	目標	144 件	100%	100%	7.0%	3.9%	△10.9%
	実績	160 件	111%	90.7%	6.0%	4.1%	△0.8%

※担当件数は年間延べ利用者数と職員常勤１の１か月あたりの担当件数

【３】事業計画の実施報告

（１）特別養護老人ホーム（短期入所事業を含む）

・人権についての理解を深めご利用者が充実した生活が送れるよう、研修を実施すると共に、身体拘束における『切迫性』『非代替性』『一時性』について再度理解を深め、身体拘束の実施者を無くすことができました。

・介護記録システムを活用し帳票の整理や緊急時に使用する書類を紙媒体からデータへ移行しＩＣＴ化への取組と効率化を実施しました。

・ご利用者に季節感や楽しい・美味しいと感じてもらえる食事の提供を目指し、１人ひとりの状態に応じた栄養管理を行いＱＯＬの向上を図りました。

・ご家族のご意見の元、献立表掲載するなどブログを通じて食事に関する情報を発信しました。

・協力病院及び協力診療所との連携の強化にて、病状が急変した場合の受け入れ体制を確保し受診や早期退院の調整を実施致しました。
看取り介護の実践にて、１９名の看取り介護を実施。最後まで住み慣れた施設での生活が送れるように支援を行いました。

（２）短期入所生活介護

・ご利用者、ご家族の要望に応えるため、理学療法士による機能訓練や買い物訓練（計算）など個別の支援の充実を図り、住み慣れた場所で在宅生活が継続して行えるように支援を行いました。

（３）通所介護・認知症対応型通所介護・身体障がい者デイサービス

・３M（ムリ・ムダ・ムラ）の削減や３S活動（整理、整頓、清掃）に取り組む事で、サービスの質を向上、業務効率の推進を実施しました。

・レクリエーションにバリエーションを追加し、１５：００以降の時間帯にも実施する２部制を導入。内容によってご家族やボランティアも随時受け入れし、地域に開かれたデイサービスを目指し透明性を図りました

・認知症対応型では、『あなたらしさを応援します』をテーマに契約時の説明を行い、アセスメントを行う事で、その人らしい暮らしの支援を目指して運営を行いました。

・施設内通貨をポイント制から、実際にコインを貯金箱に入れる方式に変更し、より溜める実感をもって頂けるようにしました。

（４）訪問入浴

・担当ケアマネジャー、訪問看護事業者からのお声掛けやご協力もあり、ターミナルケアの依頼に対応致しました。

・新規利用獲得のため積極的に営業活動実施し、実績報告時には各事業所のケアマネジャーと顔の見える関係性の構築を目指し、入浴支援を必要とされている方の情報を集め、過去実績のあった事業所から多数依頼を頂きました。
また、過去に実績のあった居宅介護支援事業所や繋がりのあった訪問看護ステーションの協力もあり、新規事業所からの依頼をお受けすることができました。

（５）訪問介護

・事業所統合後、書式が統一できていない様式も多く存在していたことから、計画書とモニタリング用紙を統一し一括管理が行えるように致しました。

・人権研修、虐待予防研修に参加した他、年２回の個別研修の実施や月例研修等により職員のスキルアップに努めました。

・要介護者の身体介護の提供を積極的に進め、稼働における身体介護の割合を３５％として目標を定めて事業運営を行い、介護保険サービス実績累計での身体介護の提供割合は約４８％となり目標を達成することが出来ました。

・保険サービス外の自立支援に必要な自費サービスの提供を行い合計４６１件サービスご利用頂きました。

（６）居宅介護支援事業所

・様々な問題を抱えた高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるよう、重層的な

支援を心掛けてケアマネジメントを提供致しました。

・障害福祉・医療・人権に関する外部研修や事例検討会に参加し、その内容を伝達研修にて事業所全員の専門性の資質向上を図りました。

・地域の身近な社会資源として貢献するため、医療機関や介護事業者、障害施設などと連携を図り情報共有を実施致しました。

・テレワークの活用や事業所でのデュアルモニターの導入など、ＩＣＴ化に向けて取り組みを開始。ケアマネジメント業務においては更なる作業効率化に向けて、デバイスを活用した携帯電話による音声入力等の開始の準備を進めています。

（7）地域包括支援センター事業所

・奇数月の第２土曜日に地域（スギ薬局店舗内）において出張相談会を定期開催しました。また、校区福祉委員会主催の高齢者のサロンへの参加や講演会の実施など地域行事などに積極的に参加し地域貢献に努めました。

・福祉の担い手の育成や教育機関との連携強化のため、実習受け入れや認知症サポーター養成講座の開催などを積極的に実施致しました。

【４】施設の課題

・人材確保が困難な状況にあり不足傾向が継続しているため、派遣職員やカイテク（スポットワーク）にて補っておりますが、既存職員への負担は増加しており、職員の採用は急務であります。速やかな職員採用が行えるよう活動を積極的に行って参ります。

・職員のスキルアップ及び人材育成を目的として、人権研修や権利擁護など定期的に研修を実施し、職員モラルの向上や人財の定着を目指して参ります。

・集いの場として年２回ふれあいサロンを提供しており、その際に地域住民より要望や意見をお聞きし、課題の抽出を実施して地域課題を拾い上げることができたため、次年度以降その課題の解決に向けて検討、検証を実施して参ります

【５】付表

（1）年間行事実績

	特別養護老人ホーム	デイサービスセンター
月	行事内容	行事内容
4	花見散歩	桜だ！ファミリア（家族揃って）ランチ
5	外食行事	母の日ありがとうランチ 母の日イベント
6	外食・スイカ	父の日ランチ　父の日イベント 室内運動会
7	たこ焼き・土用の丑の日	流しそうめん　七夕イベント
8	外食イベント	この夏沖縄の料理で元気100%、2024夏祭り
9	敬老祝賀会	敬老祝賀会

１０	ハロウィン行事	秋の室内運動会
１１	外食	秋祭り
１２	クリスマス会	クリスマス会　冬至（ゆず湯） しめ縄づくり
1	元旦祭	書初め　カレンダー作り
2	節分・握り寿司	節分祭
3	桃の節句	あったかお鍋　箱作り
毎月開催	誕生日食	誕生日食

（２）防災訓練実績

月	種別	内容
9	夜間訓練	夜間の火災を想定した訓練　初期消火及び避難訓練 担架を使用しての垂直訓練 消火設備の場所及び使用方法の説明
3	夜間訓練	日中の火災を想定した消火訓練　初期消火及び避難訓練 担架を使用しての垂直移動訓練 消火設備の場所及び使用方法の説明

（３）研修実績

特別養護老人ホーム

月	研修内容（テーマ）
4	身体拘束研修（不適切ケアについて振り返る）
5	おむつフィッターによる排泄研修（褥瘡予防）
6	身体拘束防止研修（不適切ケアから考える身体拘束）
7	事故防止研修（ヒヤリハットから考える事故予防）
8	認知症介護基礎研修（随時実施）
9	看取り研修（終末期ケアについて）
１０	感染症予防研修（感染症ＢＣＰ）
１１	人権研修（高齢者虐待防止研修）
１２	高齢者虐待防止研修（身体拘束から人権侵害を考える）
1	褥瘡予防研修
2	看取り研修（グリーフケア）
3	災害に備えるトイレの衛生環境ＢＣＰ研修・感染症ＢＣＰ

デイサービスセンター

月	研修内容（テーマ）
4	成年後見制度
5	認知症養成講座　おむつフィッターによる排泄研修　認知症ケア

	研修
6	入浴介助体験研修
7	倫理及び法令順守　身体拘束・虐待防止研修
8	ＢＣＰ防災・非常時災害の対応に関する研修 介護保険と障害福祉サービスのいろは
9	接遇マナー研修、入浴介助における研修
１０	感染症予防対策
１１	緊急時の対応研修
１２	高齢者虐待・人権侵害を考える研修
1	事故発生予防及び再発防止に関する研修 緊急時の対応　高齢者虐待・身体拘束から人権侵害を考える 感染症の予防・まん延防止ノための研修、
2	プライバシー保護の取り組みに関する研修
3	介護予防・要介護進行予防について災害に備えるトイレの衛生環境 ＢＣＰ研修
随時	入浴介助技術

訪問入浴

月	研修内容（テーマ）
4	成年後見制度
5	認知症ケア研修
6	入浴の訓練と環境の工夫訪問入浴介護における「看取り加算」を考える
7	入浴の訓練と環境の工夫　倫理及び法令順守、身体拘束・虐待防止研修
8	足浴の効果と手順 ＢＣＰ**防災**・非常時災害の対応に関する研修
9	足浴の効果と手順
１０	皮膚感染疥癬の原因・症状・予防
１１	皮膚感染疥癬の原因・症状・予防
１２	低温やけど研修
1	事故発生予防及び再発防止に関する研修　低温やけど研修　　緊急時の対応　高齢者虐待・身体拘束から人権侵害を考える 感染症の予防・まん延防止ノための研修
2	プライバシー保護の取り組みに関する研修
3	フレイルと栄養管理 災害に備えるトイレの衛生環境ＢＣＰ研修

訪問介護

月	研修内容（テーマ）
4	接遇研修、野菜のみで作れる総菜、家族への対応
5	認知症研修、ボディメカニクスの基本　人権研修
6	虐待防止研修　アンガーマネジメント　トラブルをプラスに　変えるクレーム対応　サービス内容以外のサービスを希望された場合の断り方　コミュニケーション能力
7	プライバシーと個人情報保護研修 清拭・洗髪介助、体力を保つ栄養のある食事等について学ぶ
8	ＢＣＰ防災研修　利用者介護に加え家族のサポートについて 食事介助　膝折れ防止介助　アンガーマネジメント
9	気道遺物除去研修　介護現場の医学知識腰を守るボディメカにクスの基本を知りたい　緊急時対応　清潔保持（掃除）研修　利用者に寄り添える介助について　食中毒研修、 ＢＣＰ感染症研修　認知症研修
１０	認知症研修　事故対応と再発防止（ヒヤリハット）研修
１１	緊急時対応
１２	モチベーション管理　人権研修
1	感染症ＢＣＰ研修
2	排泄介助・清拭、移乗・移動介助方法　食中毒研修　複数ヘルパーでのサービスについて　コミュニケーション能力を身につけたい メンタルヘルス研修　衛生管理研修　認知症研修 接遇研修
3	倫理と法令遵守　コミュニケーション能力　接遇研修 災害に備えるトイレの衛生環境ＢＣＰ研修

居宅介護支援事業所

月	研修内容（テーマ）
5	エンドオブライフケア研修
6	感染症基礎研修、8050 問題について
7	在宅での看取りケア（スキルアップ）研修　パーキンソン病の基礎的病態について　感染対策について　身体拘束・虐待防止研修
8	介護保険と障害福祉サービスのいろは ＢＣＰを確認し災害に備えましょう
9	困難支援な方へのケアマネジメント
１０	認知症行動療法入門編、ヤングケアラー支援研修
１１	成年後見制度の５つのポイント　ＢＣＰワークショップ（感染症 ver.）　個別避難計画の作り方を学びましょう

１２	地域共生社会に向けて他機関との連携強化研修
1	介護保険ではどないもできへん事例検討会
2	精神科医が意識する患者様への接し方　高齢者虐待防止の実践と解説セミナー　河内緩和ケア市民講座　入浴介助に関する研修　災害に備えるトイレの衛生環境ＢＣＰ研修 ＢＣＰ（防災）勉強会
3	適切なケアマネジメントプロセス 災害に備えるトイレの衛生環境ＢＣＰ研修

特別養護老人ホーム　布市福寿苑　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度　総括

・事業計画の進捗を毎月会議にて実践をしているか確認を行い、サービスの見直しを行って参りましたが、事業によっては当初予算収入に達することが出来ず、安定した財務基盤の回復までには至りませんでした。
その中において出来る限りの収益改善に取り組み、新たな加算取得を実施致しました。

・安定した職員の確保については採用計画に基づいた配置には至らず、派遣職員やカイテク（スポットワーク）、施設内異動や役職者による応援、法人内の事業所からの出向などでカバーする１年となりました。

・福祉に求められる職員像としての人材育成は職責から人事考課を実施、ＯＪＴ、ＯＦＦ－ＪＴ、ＳＤＳを実施し研鑽を行っております。しかし、事業によっては人員の関係により未実施となっております。

・地域の方々の参加の災害訓練等やグループホームの運営推進会議等により、地域の方々の新型コロナ渦で過ごされた以降の生活の変化や、現在の課題をお伺いすることができ、今後の地域活動に向けての意見交換の場を設け、交流する機会を持たせて頂きました。

・介護ケア記録システム（ブルーオーシャンシステム）をより活用することで、情報の共有などを図り業務効率の改善を致しました。

・子育て支援の地域団体や他施設と協力して１０月にハロウィン行事を共同で開催。地域密着型サービスと地域住民のとの交流を再開することができ、相談しやすい拠点作りを致しました。

【２】事業実績

		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点全体	目標	—	100.0%	68.8%	24.5%	2.8%	3.9%
	実績	—	95.6%	71.2%	26.0%	2.9%	△0.2%
特　養	目標	95.0%	100.0%	63.0%	28.9%	3.9%	4.2%
	実績	91.7%	98.7%	64.9%	29.9%	3.9%	1.1%
短期入所	目標	87.0%	100.0%	61.0%	19.6%	0.5%	18.9%
	実績	78.9%	94.9%	59.2%	22.3%	0.5%	17.8%
通所介護（一般）	目標	75.0%	100.0%	70.0%	18.3%	1.9%	9.8%
	実績	64.4%	84.8%	86.6%	20.7%	2.2%	△9.3%
通所介護（認知）	目標	55.0%	100.0%	105.0%	16.4%	0.1%	△21.5%
	実績	37.8%	70.7%	141.5%	21.9%	0.2%	△63.7%
ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ	目標	99.0%	100.0%	76.3%	28.7%	3.0%	△8.0%
	実績	96.7%	101.6%	74.0%	23.1%	2.9%	△0.1%

		担当件数	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
居宅介護	目標	1824件 1人39	100.0%	93.2%	5.3%	1.5%	△0.0%
	実績	人 1人38.6	92.3%	88.8%	6.2%	1.2%	3.7%
介護予防	目標	2928人 1人48.8	100.0%	38.0%	46.1%	3.1%	12.8%
	実績	2740人 1人45.7	93.9%	41.6%	47.5%	3.3%	7.3%
地域包括	目標	168件	100.0%	109.0%	11.7%	0.3%	△21.0%
	実績	227件	98.2%	99.7%	10.9%	0.6%	△11.3%

【3】事業計画の実施報告

（1）特別養護老人ホーム（短期入所生活介護を含む）

・人員の不足傾向が続き、派遣職員やカイテク（スポットワーク）による補完、施設内異動や役職者による応援、法人内の事業所からの出向など、人員が安定せず、新たな加算について算定を開始しても一時的に加算を取り下げたりする事象も発生致しました。

・サービス向上の取り組みについても予定しておりました行事の予定の3分の2程度の開催に留まる事となっております。

・関連機関や医療との連携においても外部へ出る機会が減少したため、関係性の強化を図るまでには至らず、メールやファックスを使用してのご案内程度となりました。

（2）通所介護・認知症対応型通所介護

・機能訓練指導員がご利用者宅に訪問して家屋調査を行い、目標に合わせた個別機能訓練計画を作成し実施致しました。
計画の見直しについても定期的に行い、ご利用者の心身機能向上に努めております。

・認知症対応型通所介護において運営推進会議の開催を年間6回計画し、オンライン開催1回を含め、開催を実施致しました。
会議では校区福祉委員や地域包括職員より現在の地域の実情や情報をリアルタイムにお聞きし、情報の共有や検討を致しました。

・新型コロナ感染症の発生もあり参加を見合わせた研修もありましたが、年間を通して必要とされる研修に参加し事業所内で伝達機会を行い、職員のスキルアップに務めました。

・新型コロナの感染状況を見ながら、運営推進会議の参加メンバーでもあるボランティアグループ『メロンクラブ』との交流の再開、グループホームとの合同行事や定期的な交流を積極的に実施。昨年に引き続き施設通貨や園芸活動にも力を入れ、ご利用者の意見を取り入れながらより充実したものになるようご支援を致し

ました。

（4） 居宅介護支援事業所

・近隣の地域包括支援センターと連携を図り、地域のニーズに対応致しました。

・入院や退所時に在宅生活をスムーズに送れるよう、医療機関や各関係機関との連携を図りました。

・定期的にケース検討会や会議を実施し、外部研修で知り得た情報の周知や社会資源の共有を事業所内で実施しております。

（5） 地域包括支援センター事業所

・第２層協議体会議について、高齢者生活支援等会議は年３回開催し、福祉・介護専門職の方々と今まで取り組んできた課題と、第２層生活支援コーディネーターとして地域の新たな課題抽出を行い、解決策について取り組んでまいりました。

・認知症についての理解を促進するため、『認知症サポーター養成講座』を地域の有料老人ホームと協働でご利用者のご家族や地域の方々向け開催致しました。

・『きっずサポーター養成講座』は昨年に引き続き、石切東小学校で開催し、ロボットのペッパー君を使用し、児童や教職員の興味を引くことが出来好評を得ました。

・今年度の印象として、居宅介護支援事業所や病院のＭＳＷや地域在住の高齢者から、家族のネグレクトや暴言暴力、介護力問題、生活困窮等の相談が増加。また警察からの認知症支援対象高齢者情報も増えており、高齢化の問題に加え、物価の高騰など現在の世相を反映したケースが多くあり、可能な限り速やかな対応支援に努めました。

・多職種連携研修会においては、居宅介護支援事業所や介護事業所、調剤薬局などから多数の参加があり、学びの機会の提供と多職種間の情報共有を図りました。

（6） グループホーム真寿庵

・ご利用者の意向を取り入れたクラブ活動の開催や年間計画に沿って外出行事を実施し、充実した毎日を過ごして頂けました。

・地域清掃やボランティアの皆さんとの交流を再開、施設内においては体操や花植えや野菜などの収穫、調理レクを通じた認知症デイサービスとの交流を実施。学校文化祭への参加やハロウィンイベントで子どもたちとの交流をするなど地域住民との交流をはかることで一人ひとりが認知症になっても地域の一員として生活できるよう支援致しました。

・職員の専門的知識並びに技術の向上に向けて、外部研修の参加や内部研修を実施致しました。

・ご利用者の健康管理に留意し感染症の予防に努め、大幅な稼働率低下もなく推移することが出来ております。

【４】施設の課題

・財務基盤の安定化を第一の目標とし施設の稼働向上を目指します。法人内での連携強化や協力医療機関等との連携により、新規利用者の紹介に繋げて参ります。

・支出に関しては物価や光熱費の高騰、施設の経年劣化や機器老朽化などにより、修繕や更新箇所が増加しておりますので、事業計画に沿って計画的に進めて参ります。
・採用計画に基づいた配置に至らず、派遣職員やカイテク（スポットワーク）にてカバーをする１年となった事から、職員の採用と人材の育成は喫緊の課題であります。速やかな職員採用が行えるよう活動を積極的に行って参ります。
・職員のスキルアップ及び人材育成を目的として、人権研修や権利擁護など定期的に研修を実施し、職員モラルの向上や人財の定着を目指して参ります。

【５】付表

（１）年間行事実績

年間行事実績

	特別養護老人ホーム	デイサービスセンター
月	行事内容	行事内容
４	日新高校桜まつり	お花見ドライブ
５		キャベツ焼き
６		プリンアラモード
７	花火大会	ビアガーデン
８	夏祭り	夏祭り
９	敬老祝賀会	敬老会
１０	布市春日神社だんじり見学	石切参道買い物ツアー
１１		焼き芋
１２	クリスマス会	クリスマス会
１	新年祝賀会	ぜんざい
２	節分	甘酒
３	ひなまつり	
毎月開催	誕生日会　ホーム喫茶　訪問販売 各種レクリエーション	誕生日食

グループホーム

月	行事内容
４	花園公園花見外出　クラブ活動　ヨガ教室
５	母の日行事　餃子作り　クラブ活動（２回）　ヨガ教室
６	みんなで楽しく体操&苗植え　収穫・調理レク 個別支援（花園公園地域行事へ参加）　クラブ活動（２回） 買い物ツアー　ヨガ教室　お誕生日会
７	運動会　ヨガ教室　クラブ活動（２回）
８	クラブ活動　ヨガ教室
９	夏祭りビアガーデン　敬老会　お誕生日会　ヨガ教室

１０	焼き芋　ヨガ教室　ハロウィンスタンプラリー（地域交流）
１１	紅葉外出　樟風高校文化祭参加　ヨガ教室
１２	クリスマス会　お誕生日会　ヨガ教室
1	元旦祝賀会　お誕生日会　参拝行事　オカリナ演奏会　ヨガ教室
2	節分　お誕生日会　ヨガ教室
3	スイーツバイキング　絵手紙（地域交流）　お誕生日会　ヨガ教室

（２）防災訓練実績

月	種別	内容
6	総合訓練	夜間想定、特養・ＧＨ職員と入所者を対象とした通報、消火、避難訓練
3	総合訓練 ＨＵＧ訓練 ＢＣＰ机上訓練	夜間想定で特養・ＧＨ職員とご利用者を対象とした通報、消火、避難訓練（消防署立ち合い） ＨＵＧを用いた災害想定シミュレーション 各事業所のＢＣＰを用いた机上訓練

※コロナ感染拡大防止のため、年間計画から変更した内容になっています。

（３）研修実績

特別養護老人ホーム

月	研修内容（テーマ）
4	東大阪市集団給食研究会
5	SARAYA 感染対策　高齢者虐待研修
6	口腔ケア研修　虐待防止身体拘束防止の禁止研修　感染予防委員会
8	特定給食講習会　褥瘡委員会研修　身体拘束ゼロ推進員養成研修
9	口腔ケア研修　感染症の基礎知識と感染対策、東大阪市集団給食研究会 高齢者虐待防止研修
１０	リスクマネジメントに関する研修会　東大阪市集団給食研究会 陽性者発生時のゾーニングについて関西感染フォーラム
１１	ＢＣＰ研修
１２	東大阪市集団給食研究会　口腔ケア研修　東大阪市集団給食研究会
3	要介護施設従事者等による高齢者虐待防止研修会　ＨＵＧ 身体拘束委員会研修　高齢者虐待研修
随時	身体拘束・虐待防止新人研修

通所介護

月	研修内容（テーマ）
4	感染症研修
5	介護技術・入浴介助
6	食中毒研修
7	虐待防止
8	人権研修
9	急変時・事故発生時の対応
１０	権利擁護・成年後見
１１	認知症対応研修
１２	倫理・法令研修
1	身体拘束防止
2	ＢＣＰ訓練
3	虐待防止

グループホーム

月	研修内容（テーマ）
4	事故リスクマネジメント研修
5	身体拘束適正化の為の研修、感染症及び蔓延防止の為の研修
6	認知症研修
9	高齢者虐待防止研修
１１	災害時事業継続計画に基づいたシミュレーション訓練（ＢＣＰ訓練） 個別避難計画の作り方を学ぶ（ＢＣＰ研修）
2	身体拘束適正化の為の研修、感染症及び蔓延防止の為の研修
3	高齢者虐待防止研修

介護老人保健施設　枚岡の里　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度の総括

・事業計画の施設方針の下、施設入所サービスと短期入所療養介護の事業運営を実施致しました。

・人権を尊重した介護を実践するため、人権と虐待防止に関する研修を定期的に実施致しております。

・ご利用者に安心できる生活の場を提供するため、委員会や担当者会議の定期開催の他、必要に応じ随時開催し、検討や検証にて虐待防止やリスクマネジメントに取組みました。

・在宅復帰を支援するために体制や業務、物品等の見直しと補填を行い、リハビリテーションの強化など、バリエーションに富んだサービスの提供と業務効率の改善を実施致しました。

・医療機関や事業所のニーズに応え、地域包括ケアの役割が担えるように多職種が協同、連携し、様々な課題解決に取組みました。

・クラブ活動や行事等を通して余暇活動の充実を図りました。
ご利用者やご家族と職員間のコミュニケーションを活性化させることを目的にクラブ活動や行事を企画実施しております。

・感染症や災害への備えとして、定期的な訓練の実施と研修を行いました。
一方で訓練は、地域の参加協力を得るには至らず課題が残る結果となっております。

【２】事業実績

		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
老　健	目標	93%	93%	100%	59%	25.7%	8.8%
	実績	93.8%	93.8%	106.3%	57.7%	25.0%	8.4%

【３】事業計画の実施報告

（１）介護老人保健施設（短期入所療養介護含む）

・入所前インテークを強化し、入所時から退所後の生活を明確にすることに努めました。また家屋の状況を基にリハビリテーション計画を立案し、課題解決の取組を実施致しました。
入所中は適宜評価を行い、ご利用者やご家族とのインテークや連絡を重視することで、在宅復帰者数は増加し、在宅復帰率は前年度から６％改善致しました。

・不適切な介護や虐待を発生させないため、苦情や事故はチームで検証を行い、原因の分析、対策を講じました。
また人権や虐待について正しく知識を修得するために定期的に研修を実施した他、安全な介護の実践を徹底するため、職員一人一人の介護技術の評価と教育を行っております。

・ご利用者の健康管理に努め、入院者は前年度より減少致しました。
・施設行事や活動の場を増やすため、カフェ等の催しの機会を作りました。
また行事やクラブ活動においては、ご利用者だけでなく、職員やご家族も一体となり楽しめるような内容を企画し開催しました。
・令和６年度介護報酬改定に伴い、運営基準や加算要件等の確認、新ＬＩＦＥへの対応を行い、必要に応じて体制の構築や変更や修正等を実施致しました。
・医療機関や居宅介護支援事業所からの受入要請に早期に応えるため、役割分担や受入体制の簡素化を行い、要請に対しては、満床を除き、ニーズに応えることが出来ました。

【４】施設の課題

・苦情や事故の内容、感染症発生状況の背景を検証すると、職員の教育に関して改めて考える必要がある一年となりました。
職員によって指導内容や思考に違いが見られることや職層に応じた必要な研修と教育の場に時間を十分に費やすことが出来ていない現状が課題となっております。限りある資源の中で学びを深めるには、研修等を受けるだけでなく学びの必要性を共通認識し、人材育成という共通の目標の下、一人一人が役割を担うことが必要と考えます。
・地域の中における介護老人保健施設の役割を考えたとき、前年度の反省を踏まえ、今年度は健康教室等を開催しご家族や地域との交流を図りましたが、まだまだ関係構築や活動の仕方に課題を感じており、次年度はより地域のニーズを把握した取組みを実施していきたいと考えています。
・感染症への備えとして研修や訓練を行って参りましたが、感染症が発生した際にはいずれもクラスターとなり、早期収束が叶わず対策における教育、研修を強化したいと考えております。。
・災害時の備えとしても、地域住民の訓練への参加や物品の確保までには至らず課題となっております。

【５】付表

（１）年間行事実績

月	行事内容
4	花見行事
5	シャボン玉
6	レクリエーション大会
7	七夕行事
8	流しそうめん
9	敬老祝賀会・ビアガーデン
１０	ハロウィン創作活動・カフェ
１１	焼き芋おやつ行事

１２	クリスマス会
1	元旦祭
2	節分祭　カフェ
3	雛祭り
毎月開催	誕生日会　里喫茶　お料理クラブ　フラメンコクラブ

（2）防災訓練実績

月	種別	内容
7	消化訓練	水消火器を使用した実技
7	日中想定避難訓練	避難訓練・情報伝達訓練
１１	土砂災害想定避難訓練	水平及び垂直避難訓練・情報伝達訓練
2	夜間想定避難訓練	避難訓練・通報訓練・消火訓練

（3）研修実績

月	研修内容（テーマ）
4	人権・虐待防止研修
5	食中毒予防研修
6	身体拘束廃止研修・安全対策研修・口腔ケア研修
9	安全対策研修・口腔ケア研修
１０	感染症研修・身体拘束廃止研修
１１	感染症研修
１２	褥瘡予防研修・口腔ケア研修
1	生産性向上研修
2	ＢＣＰ研修・高齢者虐待防止研修
3	安全対策研修・個人情報とプライバシー保護に関する研修
随時	入職時に虐待防止・身体拘束・安全対策・感染症・ＢＣＰ研修

介護老人保健施設　長田の里　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度　総括

・老健施設の稼働については、令和５年度末からの稼働低下から向上させるべく尽力致しましたが、年間の目標に達する事が出来ませんでした。
稼働率低下の中「介護老人保健施設」「通所リハビリテーション」「居宅介護支援事業所」の連携を意識的に行う事で、ベッド回転率や、在宅復帰率の向上にて２か月間という短い期間ではありましたが『在宅復帰強化型施設』として稼働し、収益の確保に努めました。

・質の高いサービス提供を行うため、職員配置と人財育成に注力致しました。

・想定しうる感染の拡大、災害の発生に備え、ＢＣＰ（事業継続計画）の見直しを行い、主要職員への研修受講及び施設内での研修・訓練の実施を行いました。

・虐待・不適切介護の根絶を目指し、マニュアルなどの見直しや研修の実施。職員面談等を行い職員からの相談対応やストレスケアを行いました。

【２】事業実績

事業名		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点全体	目標	—	100%	66.5%	24.6%	4.1%	4.8%
	実績	—	98.3%	69.3%	23.6%	4.1%	3.0%
老　健	目標	93.0%	100%	64.8%	27.5%	4.7%	3.0%
	実績	88.0%	98.9%	66.4%	26.4%	4.7%	2.5%
通　所	目標	74.0%	100%	68.3%	17.0%	1.9%	12.8%
	実績	64.1%	90.9%	82.2%	16.7%	2.1%	△1.0%
居宅介護	目標	2250件 1人37.5	100%	84.0%	4.5%	1.0%	10.5%
	実績	2210件 1人36.8	106.6%	80.5%	3.5%	0.7%	15.4%

【３】事業計画の実施報告

（１）介護老人保健施設（短期入所事業を含む）

・介護老人保健施設の機能と特色を活かし、在宅復帰に向けての支援強化を目指し、入所前後の自宅訪問にて、ご利用者及びご家族の希望とご利用者の身体能力等を把握し、多職種のもと施設サービス計画を策定致しました。
また、積極的に他職種でご利用者の自宅を訪問し個別のカンファレンスにて、在宅生活を想定したリハビリの実施や在宅復帰パスを活用した結果、年間の在宅復帰率につきましては２３.０％となり目標数値を達成しました。

・介護老人保健施設として安定した経営を継続していくため、ベッド回転率の向上と稼働率９３％を目標に取り組み、ベッド回転率については7.9％と目標を達成する事ができておりますが、その一方稼働率につきましては、下半期以降は９０％

台を維持できたものの、年間稼働率は８８％となり目標達成には至りませんでした。

・積極的に関連機関への空床案内や訪問を行い、情報収集や営業活動実施に加え、面会時にご本人の動画撮影したものをご家族へ視聴頂く、リハビリや食事など施設での生活や様子をブログに投稿など、情報を可視化し発信する事に注力致しました。

・新型コロナウイルスやインフルエンザなど感染症はありましたが、クラスターが発生することはなく、重症化にも至らず、施設での生活への影響を最小限に留めることができました。

感染症については常に新たな情報を取り入れつつ、感染症予防に係る体制強化やマニュアルの見直しや整備、ＢＣＰ（事業継続計画）の見直しを行い、更なる感染症予防に努めております。

・地域福祉の拠点となるような包括的なサービスの提供を目指し、施設の併設事業の他、関連事業所との連携強化を図り、ニーズに合わせて包括的なサービスの提供を行えるように取り組みました。

・ご利用者が安心安全に施設生活を過ごして頂けるよう外出行事の実施や域交流の一環として、秋祭りの見学などを実施致しました。

（２）通所リハビリテーション

・機能の維持回復を図り日常生活の自立度を高めて行けるよう、ご利用者ごとに生活目標やニーズを聴取し、在宅生活の継続が行えるよう、多職種で検討を行い、リハビリの訓練内容に反映させ実施致しました。

ご利用者には訓練の意義・目的を理解してもらい、積極的に実施してもらう事で能力の維持・向上が図れております。

集団プログラムにおける選択制プログラムに関しては、生活動作の中の家事動作（洗濯たたみやコップ洗い等）を実施しましたが、ご利用者からは義務的であると評価が得られず、自立性については高める事が出来なかったため、今後検討してゆく事としております。

・職員のスキルアップ及び人材育成を目的として、定期的にケアや感染対策の研修を実施致しました。

研修後も不安が残る職員に対しては個別指導を実施し、研修の理解を深めるように努めました。

・安定した経営を継続していくために営業活動の実施や体験利用の実施、行事等の取り組みを積極的にブログに投稿致しました。

（３）居宅介護支援事業所

・利用者、家族様が安心して生活が継続してゆけるよう、信頼が築ける関係性を目指し、事業所内での週１回の定例会議や個別相談の実施等を実施し、情報の共有や共通認識にて困難ケースにも対応を実施致しました。

・各諸機関や事業所との連携を深め、地域に信頼され必要とされる事業所を目指し運営を実施致しました。

【4】施設の課題

・年間を通して稼働向上に苦戦したことから、稼働向上を第一に目指します。法人内での連携強化や協力医療機関等との連携により、新規利用者の紹介に繋げて行きたいと考えております。

また、外部への営業活動の強化と共に訴求力のある情報発を実施してまいります。

・ご利用者、ご家族からの苦情や要望に関しては、接遇やマナーに関連する内容が多く今後の課題であると考えます。

認知症への理解や技術的なケア方法を含めた研修の実施、接遇マナー等への指導を行い、問題を指摘し合える環境づくりを実施してまいります。

【5】付表

（1）年間行事実績

	老人保健施設	通所リハビリテーション
月	行事内容	行事内容
4	ケーキバイキング・お花見行事	さくらの会
5	たこ焼き行事	端午の節句
6	ボーリング大会	おやつ行事
7	お好み焼き行事	七夕祭り
8	おやつバイキング（アイス or フロート）	流しそうめん
9	敬老祝賀会	敬老行事
10	地車見学・秋祭り・外出レク	スポーツ大会
11	お寿司バイキング	鍋行事
12	クリスマス会・習字	クリスマス会
1	元旦祭（おみくじ）　鍋の会	新年会
2	節分	節分
3	天ぷら行事	ひな祭り
毎月開催	誕生日会・調理レク	誕生日会

（2）防災訓練実績

月	種別	内容
7	緊急連絡網訓練	緊急時、全職員への通報訓練及び緊急動員を要請する訓練
9	風水害・地震等訓練	地震時における人的被害を最小限に抑える為の避難訓練
10	水消火器訓練	消火器の取り扱い及び初期消火を行う訓練
3	火災訓練	夜間帯の地震後の火災を想定し、初期消火・通報・避難誘導訓練を実施（消防署立会い）

（3）研修実績

介護老人保健施設・通所リハビリテーション

月	研修内容（テーマ）
4	プライバシー、倫理・法令順守
5	食中毒予防研修　認知症ケア研修
6	接遇マナー研修　褥瘡予防研修
7	緊急連絡網訓練　事故防止・再発防止研修
8	身体拘束・高齢者虐待防止研修　感染症予防対策研修
9	災害対策研修　風水害・地震等訓練
１０	腰痛予防研修　災害訓練（水消火器訓練）
１１	接遇マナー向上研修
１２	感染症予防訓練
1	事故防止・再発防止研修
2	感染症予防対策研修
3	火災訓練　身体拘束・高齢者虐待防止研修
随時	（介護老人保健施設）ターミナルケア研修

居宅介護支援事業所

月	研修内容（テーマ）
4	プライバシー、倫理・法令順守
5	食中毒予防研修　認知症ケア研修
6	接遇マナー研修　褥瘡予防研修
7	緊急連絡網訓練　事故防止・再発防止研修　合同事例検討
8	身体拘束・高齢者虐待防止研修　感染症予防対策研修
9	災害対策研修　風水害・地震等訓練
１０	腰痛予防研修　災害訓練（水消火器訓練）災害想定研修・訓練
１１	接遇マナー向上研修
１２	感染症予防訓練
1	事故防止・再発防止研修
2	感染症予防対策研修　合同事例検討
3	火災訓練　身体拘束・高齢者虐待防止研修
随時	各人の個別研修

軽費老人ホーム　ケアハウスひらおか　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度　総括

・ご利用者、ご家族のニーズに添ったサービス提供を念頭において事業運営に努め、人権研修や虐待の防止、接遇研修などを通して介護職員としての基本姿勢を再確認。ご利用者との関係の構築に努め『安心で安全な生活』を継続して頂けるよう職員意識の向上を推進しました。

・今年度は計画にレクリエーション活動の再開を掲げておりましたが、ご利用者の幾度かの感染症の発症があり、活動の再開には至りませんでしたが、施設行事では外部のボランティアによる演芸の披露などを実施頂き、喜んでいただけることができました。

・食事の提供には毎月ご利用者の体重測定を行いご利用者の健康管理を実施し、メニューの見直しを実施。また、感染対策を行いバイキング食の再開を致しました。

・施設の老朽化対策として、食堂及び玄関ホールの壁紙、天井の改修工事を実施致しました。

【２】事業実績

事業名		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
ケアハウス	目標	96.0%	100%	37.5%	65.8%	8.7%	△12.4%
	実績	97.0%	104.0%	39.4%	63.0%	8.7%	△11.1%

【３】事業計画の実施報告

（１）ケアハウス

・目標稼働率の９７％を達成致しました。引き続き迅速な入退所が継続できるよう努めます。

・入居者処遇の向上について、アンケートを実施。希望やご意見から施設行事やレクリエーションの再開を望むニーズが高いと判断し、感染予防に配慮し施設行事を通常規模に戻し実施。また、バイキング食を実施するなどの対応を実施致しました。

但し、ご利用者が主体となって行われる有志によるレクリエーションについては感染症の発生等により見合わせる事と致しました。

【４】施設の課題

・ご利用者情報について関連する介護事業者や関係機関との共有に伝達ミスやタイムラグなどがありご利用者、ご家族にご迷惑をおかけすることがあり、職員間の伝達方法の改善や関係機関との共有の方法などについて改善を実施して参ります。

・各病院の地域医療連携室からの新規利用の申し込み依頼や問合せが増加傾向にあり、今後更なる連携強化に努めて参ります。

・施設の老朽化により大規模な機器の入替や建物の修繕等が必要になってきているため、優先順位を考え計画的に対応を進めて行きます。

【５】付表

（１）年間行事実績

月	行事内容
４	花見会・おやつ会
５	端午の節句（菖蒲湯）
７	七夕祭り・おやつ会
８	おやつ会
９	敬老祝賀会
１０	枚岡神社秋郷祭見学
１２	クリスマス会・冬至（ゆず湯）
１	元旦祝賀会・七草粥・鏡開き
２	節分祭・おでんバイキング
３	ひな祭り
毎月開催	誕生日会

（２）防災訓練実績

月	種別	内容
６	総合訓練（昼間想定）	入居者避難誘導、水消火器使用方法訓練
９	予防訓練　（地震想定）	防災心得（ビデオ鑑賞）地震発生時対応
２	合同防災訓練（夜勤帯想定）	消防署立会いによる夜間通報・避難訓練
３	通報訓練	緊急連絡網を使用した模擬通報訓練

（３）研修実績

月	研修内容（テーマ）
４	法人理念研修
５	身体拘束廃止・虐待防止研修
６	感染症基礎研修・高齢者虐待防止研修（心理的虐待）
７	感染症研修（食中毒予防対策）
８	虐待防止研修(個人情報保護)
９	事故対策研修　（BCP 研修）
１０	リスクマネジメント研修（転倒骨折事故防止）
１１	高齢者虐待防止研修
１２	身体拘束・事故対策研修（人権侵害を考える　事故発生予防）
１	感染症予防対策委員会（感染症・災害 BCP 研修）

3	接遇研修

軽費老人ホーム　ケアハウス喜里川　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度　総括

・今年度は人権について考える機会が多く、法人が実施した『不適切介護アンケート』や『虐待防止アンケート』をはじめ、アンガーマネジメント研修やスピーチロック研修などの受講を実施し、職員個々の言動の振り返りを行い、丁寧な言葉遣いの大切さや適切なケア実施に繋げるきっかけとなりました。
自身の言動だけでなく他の職員の言動にも注意を払うようになり、お互いの言動を注意合う、必要に応じ上司に報告するなど、不適切介護根絶に向けた体制整備が進んでいます。

・目標稼働率についてケアハウス本体、デイサービスとも年々回復傾向にあり、今年度は小規模デイの特性を活かした個別サービスの充実と簡単で楽にリハビリできる『リハサポ』を主軸に集客力を高めたデイサービスが年間稼働率の目標を達成できております。

・拠点ベースでの収支バランスをみると、収入についてはまだまだ改善の余地がありますが、支出は概ね予算どおり執行できており、空調を更新した事による電気料金の削減、派遣職員からパート職員への雇用を転換した事などから経費削減に繋がっております。

・地域貢献活動の一環として施設設備（食堂、玄関ホール）を地域に開放し、地域サロンの開催や障がい者事業所によるパンの販売、コンビニ出張販売等に活用してもらい、地域住民や施設入居者の交流の機会確保に繋がりました。
また、地域のケアマネジャーからの経済的相談に応じ、大阪府の生活困窮者レスキュー事業へ繋げるなど地域や事業所との関係強化を実施しました。

・働きやすさと充実感が得られる職場づくりを目指し、ＯＪＴ面談やストレスマネジメントを通じて、管理者や上席職員が現場の状況を把握し、相談や対応が十分なされるよう、積極的にコミュニケーションを図り、風通しのよい職場づくりに努めました。

【２】事業実績

		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点全体	目標	—	100.0%	51.2%	53.9%	7.2%	△12.3%
	実績	—	102.0%	51.0%	52.4%	7.2%	△10.6%
ケアハウス	目標	93.0%	100.0%	42.0%	61.5%	8.6%	△12.1%
	実績	91.5%	102.5%	40.7%	60.9%	8.4%	△10.0%
通所介護（地域密着）	目標	60.0%	100.0%	83.3%	27.1%	2.3%	△12.7%
	実績	64.7%	100.3%	87.6%	22.3%	3.0%	△12.9%

【３】事業計画の実施報告

（１）ケアハウス

・目標稼働率の達成を目指し運営を実施して参りましたが、目標稼働率は達成できませんでした。

・待機者リストの進捗管理にて迅速な連絡調整に注力し、前年度よりも入退所の調整をスムーズに行うことができており、例年よりも退所者数が多かったものの、待機者を一定数確保できた事により、年間の退所者数１５名に対し、入所者数は１７名と２名上回ることができております。

・老人ホーム情報サイト等のインターネットを活用し、問い合わせや見学は増えましたが、実際に入所に繋がるケースは殆どありませんでした。

・営業の対象エリアの拡大、定期的な空床情報の発信。適切な待機リストの管理により、タイムリーに入所を希望する方の情報を共有できるようになったことで、遠方の地域包括支援事業所や他事業者からも入所の依頼がくるようになりました。

・利用者満足度アンケートの結果や日々寄せられる意見・要望の内、食事内容の改善や行事・レクリエーションの充実化を求める声が多かった事から、検食簿や嗜好調査の結果を基に、献立内容の見直しや味付けの工夫に取り組みを実施。レクリエーションとして外出行事や買い物ツアー、屋上でのお弁当会食を再開し好評を得ました。

・入居者やご家族から寄せられる様々な相談に対応すべく、生活相談員、介護職員による相談機能の充実、関係機関との連携強化に努めました。

・相談窓口の明確化、職場環境の改善を図ることで、職員が抱える問題、悩みを言い合える職場づくりに努めました。相談窓口については、生活相談員、介護士を中心に環境改善に努め、施設長とも適宜情報共有し、問題や悩みが共有できる組織風土へ転換を図っております。

・職員からのサインを見過ごさないよう、施設長もアンテナ、感度を強化し、積極的にリスク回避や悩み相談に取り組みました。

（２）デイサービスセンター

・稼働率の向上を目標に運営を行い、年間の平均稼働率は６４．７％となり目標達成できております。

・営業先の拡大や定期訪問、回数増の提案を積極的に行うことで、利用者増加に繋がり、稼働率は前年度対比で１０．９％。１日平均利用者数では２名増加致しました。新規利用者数は年間１８名となりました。

・『リハサポ』を中心に機能訓練プログラムの充実化、効果測定の重点化を図った他、男性利用者のニーズに答えるべく、新たに健康マージャンを導入し、介護予防プログラムの充実化、集客力の向上を展開しました。

・利用者６名について、積極的に区分変更やケアプランの見直しを提案し、利用回数の増加に繋がりました。

・利用者満足度アンケートの結果や日々寄せられる意見・要望の内、行事・レクリエーションの充実化を求める声が多かった事から、既存の行事内容を見直し、ご利用者の興味・関心シートを参考にグループごとに楽しめるレクリエーションを取り入れるなど。サービス向上に努めました。

・クラブ活動の担い手として個人ボランティア１名に毎週参加してもらい、利者処遇の向上に繋がりました。

・人件費の削減、人員配置の適正化に向けて看護師１名の配置を派遣からパートへ雇用転換を行いました。

【４】施設の課題

・目標稼働率を目指し、ケアハウスについては入退所の流れをスムーズに行い空床期間を短くする事で、稼働率が維持できるため、可能な限り多くの待機者を確保すると共に、タイムリーに入所希望される方の情報を多方面から集める必要があると考えております。そのためにも、日頃からの地域包括支援事業所や居宅介護事業者、病院のＭＳＷなどとの連携は勿論のこと、営業確認簿の活用や対象エリアの拡大（東大阪市全域、大東市、八尾市)、定期的な空床情報の発信等に取り組みます。

デイサービスについては、小規模デイのメリットや『リハサポ』の効果等について広く周知する必要と、地元ならではの地域に向けた営業が効果的と思われるため、既存の営業活動に加え、近隣への営業チラシのポスティングや施設敷地内に看板を設置するなど、地域に向けた営業を展開します。ケアハウスで新規入所があった場合は、早期の段階でデイサービスの体験利用を調整し本利用に繋げて行きます。

・施設内の設備関係については経年劣化による故障が続いており、修繕や更新工事が必要な箇所が増えています。

今年度デイサービス空調更新やエレベーターのワイヤー交換等をを実施しましたが、引き続き照明器具のＬＥＤ化工事やデイサービス浴室の床面修繕工事など、大規模な修繕や更新工事が必要となっており、今後も優先順位をつけながら計画的に対応を進めて参ります。

・労働者人口の減少に伴い人材不足が深刻化しており、近い将来には既存職員の人数を確保できない恐れがあります。また、正職員を中心に毎月残業が発生しており改善する必要もあります。生産性向上委員会の中で現場の課題を見える化し、具体的な改善計画を策定し業務改善を行って参ります。

【５】付表

（１） 年間行事実績

ケアハウス　　デイサービスセンター

月	行事内容	行事内容

4	花見ドライブ	花見ドライブ
5	買い物ツアー	石切参拝
6	おやつレク	おやつレク
7	おやつレク	夏祭り
8	おやつレク	ゲーム大会
9	敬老祝賀会・おやつレク	敬老祝賀会
１０	秋祭り・外出行事	秋祭り
１１	文化祭	文化祭
１２	クリスマス会・おやつレク	クリスマス会
1	元旦祭・鏡開き	正月祭
2	節分祭	節分祭
3	ひな祭り・おやつレク	ひな祭り

（２）防災訓練実績

月	種別	内容
5	昼間想定避難訓練	昼間の火災を想定した消火、通報、避難訓練
5	BCP 訓練（枚岡４施設）	初動対応と垂直避難 緊急時の飲料水確保訓練
9	BCP 訓練（枚岡４施設）	備蓄食、飲料水の近隣施設からの運搬訓練
１０	夜間想定避難訓練	夜間の火災を想定した消火、通報、避難訓練
１１	非常際災害・BCP 訓練	備品リストの保管場所・緊急連絡網の確認

（３）研修実績

ケアハウス・デイサービスセンター合同

月	研修内容（テーマ）
4	非常災害研修、災害ＢＣＰ研修
5	事故発生・再発防止研修　入浴介助研修（デイサービスのみ）
6	感染症予防研修、感染症ＢＣＰ研修
7	プライバシー保護研修、倫理・法令遵守研修
8	身体拘束適正化研修、虐待防止研修
9	感染症予防訓練、感染症ＢＣＰ訓練
１０	事故発生・再発防止研修、非常災害研修、災害ＢＣＰ研修
１１	身体拘束適正化研修
１２	感染症予防研修、感染症ＢＣＰ研修
1	介護予防研修
2	感染症予防訓練　嘔吐時の緊急対応研修（デイサービスのみ）
3	虐待防止研修、認知症ケア研修

小規模多機能ホーム　ごりょうの家　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度　総括

・地域密着型サービスとしての個別ケアや地域のニーズにも対応し、一定の成果がありました。

・地域活動は随時開催し、地域のサロンや催し、地域清掃や医療介護推進協議会等にも積極的に参加するともに、認知症カフェも開催することができております。

・小規模多機能ではニーズの高い長時間利用（夕食後送り）、デイサービスでは認知症における重度の周辺症状の方の受け入れの広報活動も積極的に実施しましたが、新規利用者数の増加が入院や入所などの中止者の人数に追いつかず、目標稼働率には届かず収支の黒字化は達成できておりません。

・人材育成については、パート職員の勤務時間の調整が難しく、研修等について実施できたのは一部にとどまりましたが、正職員はほぼ予定通りに進めることができております。

【２】事業実績

事業名		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点全体	目標	—	100%	85.0%	14.7%	13.7%	△13.4%
	実績	—	78.2%	107.3%	17.2%	20.8%	△45.3
小多機	目標	74.0%	100%	85.6%	15.2%	14.2%	△15.0%
	実績	62.1%	83.5%	99.0%	17.1%	20.7%	△36.7%
通所介護（認知）	目標	65.0%	100%	84.0%	13.8%	12.8%	△10.6%
	実績	55.8%	68.5%	125.7%	17.6%	21.2%	△64.4

【３】事業計画の実施報告

（１）小規模多機能型居宅介護

・平均介護度は２．７と前年度より高くなり重度化への対応ができております。またニーズの高い夕食後の受け入れを積極的に行い、それにおける勤務調整も臨機応変に行っております。

・介護支援専門員の確保については、世情的人材不足あり採用に至らず、管理者との兼務の解消は現状実施できていないことから、今後も人材の募集・定着に努めます。

・目標としておりました『科学的推進体制加算』の取得につきましては、今年度より加算取得することができております。

・地域支援活動については、地域清掃や御領サロンへの参画、施設開放などを継続するとともに、コロナで中止していた認知症サロンも再開することができております。

（2）認知症対応型通所介護

・職員の人事異動や体調不良による退職など職員体制が厳しい時期がありまし　たが、職員間で協力し合いサービスの質を落とさず、提供できたと自負しております。また、例年よりも多く内部研修を実施し、職員の資質や能力の向上についても努めました。

・レクリエーション活動に関して、アンケートなどで個々のニーズに応じた物を作成する等しておりますが、ご利用者の希望が高い外出行事なども積極的に取り入れるなど、よりニーズに応じた活動を行っていきます。

・当年度加算取得を目標としていた『生活機能向上連携加算（Ⅰ）』の取得はできず、当年度は『科学的推進体制加算』のみ取得となりました。

【4】施設の課題

・最大の目標である収支の黒字化を達成できなかったことが、昨年と同様一番の課題となっております。

当年度実施した小規模多機能の長時間対応。認知症対応型通所介護による他事業所で対応困難とされたケースの受入れや短時間対応などのご利用者やご家族のニーズに引き続き答えつつ、その実施について外部へ訴求して行くよう事業所への訪問や体験会の開催など、施設へ来所して頂く取り組みを積極的に行ってまいります。

また、職員の配置状況や資格状況等を随時チェックし新たな加算についても漏らさず取得していきます。

・職員体制が厳しく「家族会」の開催ができず、送迎時や連絡帳での通知、電話連絡などに終始したことから、次年度は本会を再開してまいります。

【5】付表

（1）年間行事実績

月	小規模多機能 行事内容	認知症対応型通所 行事内容
4	花見	花見ドライブ
5	魚釣り大会	
6	夏を先取りレク	
7	アイスクリーム&七夕	
8	夏祭り	
9	敬老祝賀会	敬老祝賀会
１０	秋の味覚ゲーム大会１	
１１	秋の味覚ゲーム大会２	
１２	クリスマス会	クリスマス会
1	初詣（ごりょうの家内）	
2	節分	節分祭

3	ひな祭り	ひな祭り
該当月	利用者様お誕生会	利用者様お誕生会

※御領お楽しみサロンは５回開催

※月１回ドックセラピーを開催

※認知症対応型通所介護の空白部分は昼食レクやおやつレク、集団レクリエーションなどを実施

（２）防災訓練実績

月	種別	内容
4	防災訓練（緊急連絡網）	非常災害時を想定した職員の緊急連絡網の訓練
6	消火訓練、避難訓練 （夜間帯想定） ※小規模多機能	小規模多機能（１Ｆ）の夜勤帯の火災を想定した訓練。消防隊が到着するまでの間、職員がすべき消火作業、避難誘導
7	総合訓練 ※認知症通所介護	地震（震度５以上）による台所から火災発生を想定し、ご利用者の安全確保、避難経路の確認にて１階玄関まで避難誘導
１０	総合訓練（合同） （消防署員立ち合い）	消防署の立ち合いの下、避難経路の確認、消火器の使用を実施

（３）研修実績

小規模多機能・認知症対応型通所

月	研修内容（テーマ）
4	倫理および法令遵守についての研修
5	プライバシー保護の取り組みについての研修
6	目薬の正しいさし方について 感染症の予防およびまん延防止に関する研修
7	高齢者虐待防止のための取り組みについて
8	非常災害時の対応に関する研修
9	事故発生または再発防止に関する研修
１０	緊急時の対応に関する研修
１１	感染性胃腸炎の対応研修
１２	身体拘束の排除のための取り組みについて
1	安全な送迎のための取り組みに関する研修
2	虐待に関する研修 接遇に関する研修 感染症対策の研修
3	業務継続計画＜ＢＣＰ＞に関する研修 虐待に関する研修

上記はリモート研修または内部・外部研修となっている。

介護老人保健施設　すいれん　令和６年度　事業報告

【１】令和６年度の総括

・介護保険改正に伴い地域包括ケアシステムの深化の推進や自立支援、重度化防止に向けた対応の実施と良質なサービスの効率的な提供を目指すと共に、働きやすい職場づくりに取り組みました。

また、必要な介護サービスを切れ目なく提供でき、ご利用者が住み慣れた地域で安心した生活が送れる事を目的として、施設内の併設事業所が共同で支援できるよう連携に努めました。

・感染症や災害等の有事の際、事業の継続が行えるよう研修及び訓練をそれぞれ実施致しました。

・ご利用者の健康管理について４月と５月に新型コロナウィルス感染症により施設内においてクラスターが発生したものの、その後については単発的な新型コロナウィルスやインフルエンザに罹患される方もありましたが、クラスターの発生はなく終息しています。

・ＩＣＴ機器を推進し、記録業務の効率化など生産性向上を目的とした委員会の設置を行い現場環境の課題の抽出・改善に取り組みを実施致しました。

また、ＮＡＳ（施設内ファイル共有システム）をより活用できるよう、各種記録関係の電子化を進め、２重記載等がなくなるよう整備しました。

【２】事業実績

		稼働率	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
拠点全体	目標	—	100.0%	61.0%	25.6%	11.1%	2.3%
	実績	—	103.8%	57.6%	25.1%	10.7%	6.6%
老　健	目標	93.0%	100.0%	58.7%	27.5%	11.9%	1.9%
	実績	90.4%	106.0%	53.9%	26.7%	11.3%	8.1%
通　所	目標	72.0%	100.0%	67.0%	18.4%	7.7%	6.9%
	実績	66.6%	90.9%	72.1%	18.5%	8.5%	0.9%
		担当件数	達成率	人件費率	経費率	償却費率	利益率
居宅介護	目標	1064件 1人30.0	100.0%	94.7%	7.2%	4.2%	△6.1%
	実績	1059件 1人29.4	101.0%	102.5%	4.8%	4.2%	△11.4%

【３】事業計画の実施報告

（１）介護老人保健施設（短期入所事業を含む）

・年間退所者数の内訳では、宅復帰率が約３５％と住み慣れた地域への在宅生活継

続について、地域包括ケアにおける介護老人保健施設としての役割を果たす事ができたと考えております。

・介護老人保健施設として安定した経営を継続していくため、稼働率９３％を目標に事業運営を行い、年間稼働率は目標達成には至りませんでしたが、９０．８％と昨年度実績を４.１％上回る結果となっております。

・感染症への感染防止対策を行う中、少しでもご利用者とご家族との関わりがもてるよう、面会や外出について適宜見直しを行い、徐々に拡大を実施しております。今後も面会や外出といった家族との交流の場を増やし、ご利用者の精神的ケアやご家族の安心できるサービス提供を目指します。
その他、ブログや広報誌を通して、積極的に施設内で提供するサービスを発信し、施設サービスが閉鎖的にならないよう努めました。

・施設サービスが画一的にならないよう、ご利用者やご家族の希望やニーズ、取り巻く環境に配慮したアセスメントを実施し、サービスの質の向上に努めました。引き続きご利用者の立場に立ち、気持ちを汲み取ったケアが提供できるよう努めてまいります。

・記録関係の電子化を推進し、施設内の情報共有システムを使用する事でスムーズな情報共有が可能になり、記録様式の見直しや２重記録の廃止に取り組んだ事で業務効率が向上しております。。

・施設内の併設事業所間の連携の他、継続的に外部へ営業を行い、スムーズに入所して頂けるよう地域の居宅介護支援事業所と関係性を深め、少しずつではありますが居宅介護支援事業所からの新規紹介が増加しております。

（２）通所リハビリテーション

・身体状況に合わせた運動プログラムを実施し、リハビリ会議などでその効果について比較評価を行った結果をご利用者、ご家族、担当ケアマネジャーへ情報提供し共有に努めました。

・介護予防のご利用者を中心に創作活動や自主訓練がご自身でできる環境を提供し、自立支援への一助に努めました。

・広報誌やブログを活用し、イベント内容などの広報活動にて外部への訴求を実施致しました。

・感染症対策を積極的に行い、ご利用前の検温、体調確認を行なうことで、事業所内での感染症の流行などはなく未然に防ぐことができました。
引き続き研修などを通じ感染症への知識の向上、情報共有を行い、ご利用者への啓蒙活動などへ活かして参ります。

（４）ケアプランセンター

・大阪市介護保険事業者調査により一部改善の指示をお受けした事から実施致しました。その他、ご指摘の部分については真摯に受け止めると共に、評価頂けた点については、自信を持って事業所一丸となり、事業運営に努めました。

・入院時の医療機関への情報提供並びに退院時のサービス調整や必要に応じた施設サービの提案など、他業種との連絡・連携が行えました。

引き続き在宅支援だけに留まらず、利用者の状況に応じたサービス提案ができるように努めて参ります。

【4】施設の課題

・稼働は向上傾向となりましたが、目標稼働に向け向上を目指します。施設及び法人内での連携強化や協力医療機関等との連携により、新規利用者の獲得に繋げて参ります。

・介護業界に限った事ではありませんが、職員の減少や新規職員の獲得が困難な状況にあり、マンパワー不足は深刻な状況にあります。
カイテク（スポットワーク）などの導入を行い職員の負担を軽減していますが、ご利用者の継続したケアの管理や居室担当による環境整備、アセスメントなど対応が難しい業務も多々あり、既存職員への負担が増加している現状があることから、速やかな職員補充が行えるよう採用活動を積極的に行って参ります。

【5】付表

（1）年間行事実績

月	老人保健施設 行事内容	通所リハビリテーション 行事内容
4	お花見散歩　誕生会	すいれん春のレク祭り　誕生会
5	菖蒲湯　誕生会	カブトとり合戦　誕生会
6	ボウリング大会　誕生会	仮装・変装祭り　誕生会
7	短冊飾り　魚釣り大会　誕生会	織姫に会いに行こう　誕生会
8	野球大会　　誕生会	ヨーヨー釣り　誕生会
9	敬老祝賀会　誕生会	敬老祝賀会　誕生会
10	運動会　誕生会	運動会　誕生会
11	紅葉の散策、体操　誕生会	サッカー祭り　誕生会
12	クリスマス会　誕生会	年忘れビンゴ大会　誕生会
1	元旦祝賀会　誕生会	お正月行事　誕生会
2	節分祭　ゆず湯　誕生会	節分　誕生会
3	ひな祭り　誕生会	いちご狩りレク　誕生会

（2）防災訓練実績

月	種別	内容
5	基礎訓練	新人職員を対象とした、施設の防災機器・器具の場所及び取り扱い方法等の周知
8	消火訓練 合同防災訓練	水消火器を用いた防災訓練と、火災時の対応等についての訓練
12	夜間想定 避難訓練	消防署立ち合いのもと夜間想定の消防訓練を実施 初期消火訓練・避難誘導訓練・通報訓練

（３）研修実績

介護老人保健施設

月	研修内容（テーマ）
4	個人情報保護について　倫理及び法令遵守について 職場でのハラスメントの防止に向けて
5	介護福祉士実習指導者講習会
6	手洗い・手袋着脱動画研修及び訓練　食中毒に関する研修 感染症基礎研修　口腔乾燥と口腔ケア 介護施設のＢＣＰのポイントと実効性を高める訓練実施 ＢＣＰ机上訓練　行政立入り監査対応のポイント
7	ヒヤリハット研修　ＢＣＰ机上訓練
8	現役介護員が実際に受講している褥瘡研修　ヒヤリハット研修 身体拘束ゼロ推進委員会養成研修　安全対策担当者養成研修 認知症基礎研修
9	現役介護員が実際に受講している褥瘡研修　認知症研修 認知症の方への接し方と不適切ケアについて 災害時・感染症発生時におけるＢＣＰ研修 身体拘束ゼロ推進委員会養成研修 開口拒否、開口しにくい方の口腔ケア
１０	認知症研修　接触感染に対する入浴の移動方法についての訓練
１１	嘔吐処理の研修　認知症基礎研修 高齢福祉サービス従事者向け高齢者虐待防止研修
１２	嘔吐処理の研修　転倒・転落事故の原因分析と対策研修報告 身体拘束から人権侵害を考える　人権研修 口腔ケアのポジショニングについて 社会福祉施設におけるチームビルディングについて
1	人権研修
2	人権研修
3	苦情対応研修　身寄りのない方についての後見人制度 特定給食講演会

通所リハビリテーション

月	研修内容（テーマ）
4	介護現場におけるハラスメントに関する職員研修 個人情報保護研修　倫理及び法令遵守
5	感染症対策研修
6	事故対策予防　感染症基礎研修会

	感染症基礎研修会
7	ＢＣＰ机上訓練
9	高齢者虐待研修「正しいケア」 笑顔を増やし機能回復につながるレクリエーション
１０	介護のプロとして認知症ケアで大切なこと
１１	嘔吐処理の研修　高齢者虐待防止研修 虐待防止と身体拘束防止
１２	身体拘束から人権侵害を考える
1	人権研修　事故報告書の書き方研修 ＢＣＰ研修・訓練
2	介護現場のハラスメントゼロへ
3	苦情対応研修

居宅介護支援事業所

月	研修内容（テーマ）
6	高齢者、障がい者虐待の理解と防止について 大東市自立支援ケアマネジメント検討会
7	ＢＣＰ机上訓練　終末期のがん患者における退院支援と地域医療 訪問看護師による重度化防止とは　医療と介護の連携について
8	介護保険法の改正後の動向について　意思決定支援の基礎
9	接遇マナー　介護に関わるすべての人へ倫理・法令遵守 見ようとしなければ見えないヤングケアラーの現状とかかわり
１０	不適切ケアについて　ＢＣＰ研修 潰れないリーダーになるために～リーダーを続けるコツ～ 相談援助技術の振り返り　ＢＣＰ訓練セミナー自然災害編 ケアマネジャー、相談援助職のための相談援助技術の振り返り
１１	業務改善について　ＩＣＴを用いた医療と介護の連携 ＡＣＰ人生会議
１２	人権研修
1	アルツハイマー型認知症の進行過程 大東市自立支援ケアマネジメント検討会議 ランチョンＰＤ勉強会　人権研修 感染症対策ガウンテクニック
2	書類に関するトラブルとその対応方法　苦情の再発防止研修 災害時に向けたＢＣＰの確認と在宅利用者の安全確保
3	ケアマネジメントプロセスのおさらい 身寄りのない方についての後見人制度 グレーゾーンをスッキリさせる！業務の見極めとリスク回避の秘訣